

# USHIO Lighting—Edge Technologies

## 「光」でできること、「光」だからできること

高精度化、超微細化、低温処理化がどんどん進む技術革新の真ただ中で、光がこれらのボトルネックを解決する新しい有効な手段として、さまざまな分野で重要な役割を担い始めています。これからの光創造企業集団 USHIOに、どうぞご期待ください。

インターネットでUSHIOのホームページをご覧ください。  
<http://www.ushio.co.jp>

『USHIO サステナビリティレポート 2009』に関するご意見、お問合せは下記までご連絡ください。

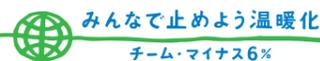
発行:ウシオ電機株式会社  
管理総括 環境マネジメント統括室

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1  
TEL(03)3242-1892 FAX(03)3245-0589



この印刷物は、FSC認証紙を使用し、植物油100%の「大豆油インキ」を使い、ISO14001認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。また、省資源化(フィルムレス)につながるCTPIにより製版しています。

09-06-7000D①



# Sustainability Report

サステナビリティレポート

2009



USHIO Lighting—Edge Technologies





## 人と環境にやさしい社会を目指して

### 21世紀型の社会

21世紀型の社会では、人間の豊かさを実現するグリーンマネジメント（環境経営）と社会との融合を実現することが求められます。

これまでの高い収益を上げることやコストを下げて競争力を高めるといった企業価値に加えて、自然に優しい、有限の資源を無駄にしない企業活動がますます重要な課題となってきます。

人間が地球環境にどれだけ依存しているかをはかる指標であるエコロジカル・フットプリントによると、世界中の人々が先進国と同じようなくらしをはじめると、地球が2から5個以上必要だと見積られています。地球への環境負荷をできるだけ少なくし、かつ自然の生産力をのばす技術革新による新しい経済社会すなわち、低炭素社会、循環型社会への変革が必要なのです。

企業は「環境力」を高め、発揮し、この変革に積極的に

関わっていかねばなりません。

さらに人を大事にする考え方が求められ、温かさや優しさを持った企業経営が評価されてきます。一人ひとりが、人生の充実を多様に選択できる企業では、生きがい働かがいを感じて働き、自らの仕事の質を高め、豊かな職業生活を送ることができます。また、組織外の活動において地域の関わり合いを強めることで、「人間力」をのばし、豊かな社会の形成につながります。

### 「環境力」と「人間力」で世界に貢献

日本は、高度経済成長期に経験した深刻な公害問題やオイル・ショックといわれるエネルギー危機を乗り越えるために、先進的な環境技術や省エネルギー技術を蓄積してきました。21世紀の牽引役となる中国、インドなどの新興国や回復を目指すアメリカなどの先進国の経済活動において、日本の環境・省エネ技術の先進性を生かし、世界に技術を供与していくことが求められています。

ウシオグループもクリーンな光の製品技術に基づいた「環境力」と、人を大事にする考え方による経営に基づいた「人間力」を通じ、世界の成長とグリーン・エコノミーの両立に貢献します。



代表取締役会長兼  
ウシオグループ代表

西田 昌弘

## 「環境ビジョン」に基づき、 環境と経営を一体化した事業展開を進めます

### 経済のグリーン化を見据えた環境ビジョン

環境負荷が地球の再生能力内に納まる持続可能な社会への変革のため、企業は率先して行動していかなければならないと考えています。

ウシオグループは、将来起こると予測される、「地球温暖化の影響」「資源の枯渇」「生態系の破壊」を最小限にするために2020年のウシオはどうあるべきかを描き、『2020年 ウシオ環境ビジョン』を新たに決めました。このビジョンからのバックキャストにより、第三期環境目標、行動計画を策定し、実践し、経済のグリーン化に貢献していく所存です。

各国のグリーン・ニュー・ディール政策では、経済危機を乗り越えるイノベーションとして、環境技術の普及、開発が拡大されようとしています。経済のグリーン化が21世紀の世界を持続可能な社会へ導くものと考えます。

### 経営の機軸は社会的責任を果たすこと

企業の社会的責任は、競争力のある新しい製品、よりよいサービスを創り出し、提供するとともに、安定利潤を確保することにあります。

サービスなどを含めた総合的な商品価値が競争力をもつことは、材料やエネルギー、人材などをニーズに対して、効率よく使った証です。安定利潤は、納税、株式配当を通して社会に還元されるとともに、成長への投資資金となります。また、社員の安定した生活の保障、お取引先さまの発展、社会との共生、地球環境の保全のベースとなります。

### 環境を念頭に置いた事業展開

環境に配慮した事業展開では、省エネ目標を業務目標に組み込んだ活動や、マテリアルフローコスト会計導入による廃棄物削減など、生産性向上活動と一体化した「プロセスのグリーン化」を推進しています。

環境配慮製品開発では、それぞれの産業用途分野においてウシオが「求める環境性能」をお客さまに提案し、省エネ・省資源型製品や、製品の回収リサイクルなどライフサイクル全般にわたる環境負荷の低減を目指しています。

2007年度からの第二期ウシオ環境行動計画で、

- ・ものづくりでの「環境生産性」向上
- ・環境性能を高めた「光技術・光製品」の開発
- ・「環境リスク」マネジメントの強化

の3つの活動を推進してまいりました。本年度は厳しい経営環境下にありますが、その総仕上げとして“攻め”と“守り”の両面で実効的な施策を展開し、ウシオグループの企業価値を一層高めていきたいと思えます。「環境」の「力」を、企業活動のアウトプットに結びつけ、「光を通じた環境貢献」を実現することがウシオグループの目的です。

引き続きみなさまのご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長  
(環境委員会委員長、グループ環境会議議長)

菅田 史朗

## USHIO GROUP 企業理念

- ① 会社の繁栄と 社員一人ひとりの人生の充実を一致させること。
- ② 国際市場において 十分競争力のある製品・サービスを提供すること。
- ③ 優れた製品、新しい研究開発を通じ 進んで社会に貢献すること。
- ④ オープンで自由な企業活動を通じ 競争力を高め 安定利潤を確保すると共に 企業の社会的責任を果たすこと。

ウシオ電機およびウシオグループ社員のあらゆる活動の根幹となる企業理念は、創業から40年を経過した2004年度に、時代の変化によって鮮明になってきた社会的課題、「企業の社会的責任を果たすこと」などを軸とし、制定しました。第二の創生期と位置付けて新しい事業戦略や組織改革を再スタートさせています。

## 社会の一員として私たちの行動指針 10

- ① 私たちは、多様な個性と価値観を受け入れ、共働する会社を目指し、自己研鑽と自己改革に努めます。
- ② 私たちは、革新的で、挑戦的で、スピーディーな経営に取り組み、会社としての永続的な発展に努めます。
- ③ 私たちは、すべての人々の基本的人権を尊重し、明るく安全快適な職場環境を作ります。
- ④ 私たちは、良質で安全な製品・サービスを適正な価格で提供し、公正・公平な取引を行ないます。
- ⑤ 私たちは、社会から理解と信頼を得られるように努めます。
- ⑥ 私たちは、法令を遵守し、社会的良識に従って、公正な企業活動を行ないます。
- ⑦ 私たちは、会社の定める規則や基準に従い、誠実に職務を遂行します。
- ⑧ 私たちは、環境保全と資源の有効活用に取り組みます。
- ⑨ 私たちは、積極的な広報活動を行なうとともに、第三者の情報の価値や権利を尊重します。
- ⑩ 私たちは、国際社会の一員として、それぞれの地域の発展に貢献します。

一人の誤った行動が、会社の基盤を揺るがすこともあります。あらゆる事業活動において、社会や環境などのルールに反する行動があってはなりません。この行動指針は、ウシオ電機社員一人ひとりが順法精神や高い企業倫理を持ち、企業理念に基づく行動のあり方を示したものです。

## ウシオ電機環境方針

### 基本理念

ウシオは地球環境との共生が企業としての最重要課題の一つであると認識し、事業活動のあらゆる場面における、環境保全への取組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

### 行動指針

- ① 国内外の法規制や環境上の規範の遵守はもとより、さらに自主的な基準を設定し、その実現に努めます。
- ② 全事業領域において、廃棄物・有害物質の削減、省資源、省エネルギーおよびリサイクルを推進し、環境負荷の低減に努めます。
- ③ 環境に配慮した「光技術・光製品」の開発・提供に継続的に取組みます。
- ④ 化学物質や廃棄物による自然環境の汚染など、環境リスクの予防に努めます。
- ⑤ 環境保全への取組みについて定期的な監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- ⑥ 社会の皆さまに、環境への取組みについての情報を提供し、対話と相互理解のもと、さらなる環境活動の向上に努めます。
- ⑦ 従業員一人ひとりが、環境保全のために果たすべき役割を自覚し、循環型社会の実現に向けて貢献します。

2005年3月1日  
ウシオ電機株式会社  
代表取締役社長（環境委員会委員長）

菅田史朗

「ウシオ電機環境方針」のほか、各カンパニーおよびグループ会社においてもそれぞれ環境方針を定め実践しております。この「ウシオ電機環境方針」は、その最上位の方針として位置付けられ、グローバルに整合を図り反映させています。

## 特集 座談会 2009年5月8日



# 私たちは会社の制度を利用して 自分の可能性を拡げています

ウシオグループは社会的責任を果たすことを経営の最重要課題と位置づけ、社員に向けては「社員の個性と価値観を尊重し、働きやすい職場環境の整備に努め、会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」を企業理念とし、会社諸施策や制度を設けています。では実際に働く社員は、そのための制度をどのように活用し、やりがいを見いだしているのでしょうか。

### 育児休職を利用して、 子育てと仕事を両立

山口 ウシオグループはご存知のように、「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」を企業理念の一つとして掲げています。仕事と自分の生き方の両立、つまりワークライフバランスを大切に、さまざまな制度を設けているわけですが、みなさんほどのように活用されていますでしょうか？

平井 私は4年前に子どもを出産しまして、1年半ほど育児休職を取りました。おかげで子どもが生まれて、ハイハイを始めて、立って、おしゃべりをしてという成長の一つひとつを間近に見られて、本当にありがたかったです。制度がある事で、安心して子育てに専念できたという気がします。

菅田 育児のためには、6時間勤務の短時間勤務制度もあります。それも利用しましたか？

平井 はい、利用しました。たとえば朝、子どもを小児



出席者  
写真左から

システムカンパニー  
システムユニットBU 営業部  
鈴木 航太

代表取締役社長  
菅田 史朗

アジア  
マーケティング統括室  
白水 昭衣

科の病院に連れて行ってから出社したり、あるいは夕方早めに帰って、病院に連れて行ってから帰宅するという事もできました。時間的に余裕があると、ある程度子どものペースに合わせることができるので、短時間勤務制度は大変助かります。

**鈴木** 育児休職は私も利用しました。子どもは二人で、1歳半になる下の娘が生まれたときに2ヵ月ほど取りました。

**菅田** 男性の育児休職は、鈴木さんが第一号ですか？



**鈴木** いえ、私の前にもいらっしゃいました。その方が仕事でも関わりのあった方でしたので、子どもが生まれるときに相談したところ、それはぜひ取った方がいいよと言ってきて、取得しました。

**菅田** 男性にとって、育児はいかがでしたか？

**鈴木** 正直言って、かなり楽しかったです。一人目の息子のときはあまり世話ができませんでしたが、下の子はお風呂に入れたりおむつを替えたりということもしましたから、子どもとの絆も強まった気がします。これは仕事をしながらではできなかったなと思いますので、できれば男性の育児休職期間がもう少し長ければ、とも思います。

**菅田** 配偶者が働いている場合は最長で2年取れますが、配偶者が働いていない場合は2ヵ月ですからね。もう少し長い方がいいかも知れませんが、齋藤さんは育児休職は使わなかったんですか？

**齋藤** そうですね。子どもが生まれたときはちょうど新製品の開発が終わって量産に移るタイミングだったんです。そのコーディネイトの仕事をしていましたので休めませんでしたが、チャンスがあれば取りたかったですね。なにしろ、趣味は子育てですので(笑)。

**菅田** 私が若い頃は男が育児休職を取るとことは考えられないという雰囲気がありましたね。それは

会社がというよりも、社会全体がそうでした。今の世代の旦那さんは育児に大変熱心で、楽しんでやっていますね。その辺が年代の違いというか、時代の違いを感じますね。

**鈴木** 育児休職の取得についてはまず上司に相談したんですけど、大変理解がありまして、いつから取るかや仕事の引き継ぎをどうするかなど上司の方が積極的に進めてくださりまして、問題なく取ることができました。

### 周りの方たちも 休職取得を積極的にサポート

**山口** 休職するという事について、不安はありませんでしたか？

**鈴木** 育児休職取得中も不安はとくにありませんでした。というのは、会社には定期的に連絡を取っていて、会社の様子はわかっていました。メールや、後輩からの相談の連絡もありましたし。実際、戻ってからも、周りのいっしょに働いている人たちが受け入れてくれて、問題なかったですね。

**平井** 私も1年半近くも休むとなると本当に仕事に戻れるのかなという不安もありましたが、休職中は同僚の方からメールをもらって、うれしかったですね。会社でこんなことあったよとか、菅田さんが社長になったよ、とか(笑)。実際に戻ることが決まったときは、当時の上司がわざわざ家の近所まで来てくださって、新しい仕事の説明や、会社の現状などを説明して下さるなど、みなさんの後押しがあって本当によかったと思いますし、感謝しています。



新規開拓室  
神山 和久

社長室秘書課  
平井 承子

ランプカンパニー  
プロジェクトBU 営業部  
齋藤 純一

司会進行  
管理総括 人事部  
ゼネラルマネージャー  
山口 修一



**菅田** メールが普及したおかげで、仕事の継続性や復帰の容易性は大きく高まりましたね。会社を離れていても会社の様子がわかるということで、休職制度が使いやすくなっていますね。

**白水** 育児をしている方が仕事を家に持ち帰って、家で育児と仕事の両方をできる在宅勤務のような制度があるといいなと思ったんですが…。

**菅田** 最近はいつでもどこにいても仕事ができる環境が整ってきていますので、人に会わなければいけない営業の人は難しいかも知れませんが、職種によっては導入可能ですね。

### 国内留学で得難い体験、 視野が広がりました

**山口** 人生の充実という意味では、自己啓発できる環境も大きな要素だと思いますが、いかがですか？

**神山** 私は入社5年目に、国内留学制度で国際大学に2年間行くことができました。受験勉強は仕事から家に帰ってからのということで、けっこう大変でしたが、これは素晴らしい制度ですね。会社から給料もボーナスもいただきながら国際大学に通えるんです。

**菅田** 国際大学に行くためには、英語力はどの程度必要なんですか？

**神山** 試験はTOEICとかではなく、英語で数学の問題が出たり、論理学をやったり独特です。もちろんそのための傾向と対策を勉強しました。会社からの派遣候補生として、失敗できないというプレッシャーを受けながら(笑)。

**菅田** 国際大学ではどんな勉強をするんですか？

**神山** 大学には日本人だけでなくインドネシアや中国、

韓国といったアジアの人たちや欧米の人たちが幅広く集まっており、そうしたさまざまな人たちとグループプロジェクトを作り、マネジメントをしたりします。会社から離れて、めったにできない体験ができました。また他の業界の方たちと時間を共有でき、人脈ができたことも大きいですね。その人たちとのつながりは今も続いていて、仕事に直結したこともあります。ここしばらく利用する人がいないようですが、こんなチャンスはなかなかないと思いますね。

**齋藤** いいですね。私も機会があればチャレンジしてみたいですね。

**菅田** 国内留学は少なくとも、海外留学に出る人は多いですね。

**齋藤** そうですね、技術系の方は行かれていますね。私の同期にも海外の大学を受けている最中の人があります。

**神山** 国際大学からは交換留学で、海外留学もできるんです。私もそれを利用して、イタリアのミラノに3~4ヵ月行ってきました。

**菅田** 向こうではどんな勉強をしたのですか？

**神山** MBA(経営学修士)のプログラムを英語で受けます。MBAに行く共通一次試験のようなものがあった、これもまた独特なテストでした。世界各国から集まることができます。



### 英語の勉強を会社がバックアップ

**菅田** 白水さんは会社からの補助を受けて社外の教室で英語を勉強しているんですよね？

**白水** はい、たまたま輸出入の業務をしていたということがあり、上司に勉強したいと言いましたら快く「やっておいで」と言われまして。英語の苦手な営業の方が



いればお手伝いするとか、受発注のコミュニケーションとか、英語はますます必要になってくると思っています。

菅田 英語はすいぶん上達しましたか？



白水 元の点数は申し上げられないんですが、TOEICを定期的に受けていて、入社時に比べて300点あがりました。TOEICの受験料もほとんど負担してもらい、本当にいい機会を与えていただ

いているなと思います。

菅田 語学はとにかく若い頃からやった方がいいですからね。前は会社に講師に来ていただく英会話講座がありましたね。

神山 私もそれ受けました。

山口 一時期人数が多くて2クラスあったのですが、業務を優先して欠席する人が多くて、それだったら自分のペースで勉強しなさいということで講座はなくなりましたね。

菅田 確かに私も、会社に入った後で一番英語力が上がったのは、電車の中でしたね。通勤電車でイヤホンをつけて、英語の小説の朗読を聞いてヒアリング力があがりました。

齋藤 私は朝のNHKの英語の番組を目覚まし代わりにして毎日聞くという方法を行っています。

山口 通信教育のUBS\*で勉強するのもいいですね。

菅田 UBSはヒアリングも勉強できるんですか？

山口 はい、ヒアリングマラソンというものがあります。

菅田 今、UBSの受講率はどれくらいですか？

山口 受講率はちょっとわからないのですが、2008年度は304講座で年間のべ566講座の受講がありました。期日までに終了すれば受講料を会社が半分補助し、優秀な成績なら全額払ってくれるので、それを目指して一生懸命勉強するようです(笑)。

白水 グローバル・ビジネスをさらに押し進めるため

には、英語に限らず、スペイン語なども勉強できたらいいですね。語学以外でしたら、UBSではパソコンの講座もよく受けられているようです。私も、上司からパワーポイントやエクセルの勉強をやれば、と言われるます。

### 自ら挑む能動的な企業へ

菅田 自分から進んで勉強するという姿勢も大切ですね。意欲のある人は、会社で仕事をしながら大学のドクター課程へ通って、ドクターディグリーを取られた方もいます。

齋藤 持続可能に会社が発展していくためには社員一人ひとりのレベルアップが大切ですので、私は光のスペシャリストであるウシオ電機の一人として、光に関してトータルで提案できるようになりたいと思っています。



菅田 みなさんには、パッシブではなくてアクティブであってほしいと思います。それは個人もそうですし、会社全体としてもそのように変わってほしいと思っています。ウシオ電機はこれまでお客さまから依頼された製品を開発し提供してきたわけですが、これからはどういう分野にどういう製品を、どういうお客さまに企画したらいいのか自ら考え、提案していく必要があります。そうすることで、可能性はもっともっと広がると考えています。

山口 みなさん、本日はありがとうございました。

\*UBS ウシオビジネススクール

会社の制度についての詳細は、P14.15「社員とともに」をご覧ください。

# CSR経営

## CSRガバナンス

ウシオグループは、「社会的責任」を果たすことを経営の最重要課題と位置付け、ガバナンス体制を構築するとともに、「企業理念」と「私たちの行動指針10」によって社員への強い意識付けを行っています。

### 基本方針

ウシオグループの基本方針は、企業経営における透明性と効率性を確保すること、および、全てのステークホルダーの方々の期待に応えて企業価値を増大させていくことにあります。また、そのための法令遵守およびJ-SOXを含めた内部統制の体制確立・維持を経営の最重要課題として位置付け、これらを推進します。

### コーポレート・ガバナンス体制

ウシオ電機の経営管理組織としては、経営方針などの重要課題に関する意思決定および業務執行の監督機関として「取締役会」、業務執行機関として「代表取締役」を設置しています。「取締役会」は月1回の定例開催のほか、必要に応じて臨時に開催しています。また、監査役会制度を採用しており、監査機関として5名の監査役のうち3名の社外監査役を含む「監査役会」を設置するとともに、各監査役は各々専門の監査分野を持ち監査を実施しています。

さらに、ウシオ電機ならびにグループ全体の経営戦略や中長期の経営方針などを審議するため、「経営会議」「グループ経営協議会」「グループ執行役員制度」を設け、取締役会の意思決定を支援するとともに、代表取締役の業務執行の

強化や迅速性を高めるため「社内カンパニー制度」や「執行役員制度」も導入しています。

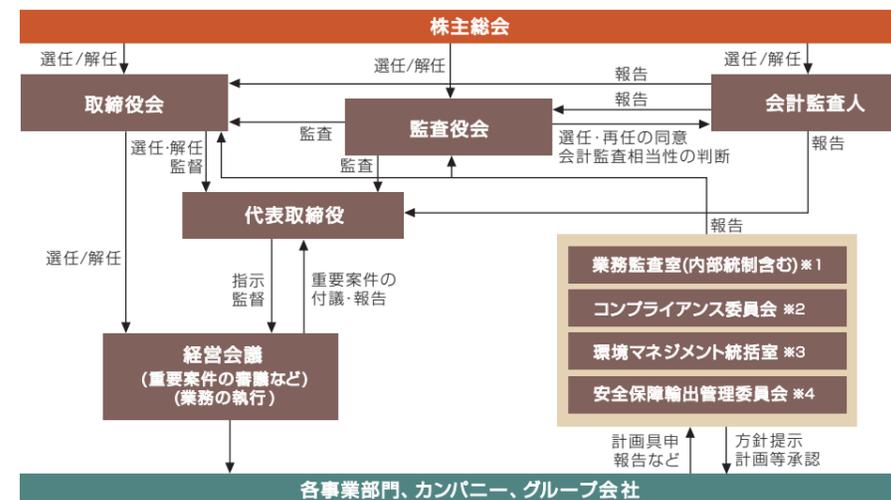
### 内部統制の仕組み

ウシオグループでは、全グループ社員が法令、定款および企業理念を遵守した行動をするための行動指針を定めています。また、その徹底を図るために、コンプライアンス委員会を設け、業務監査室はコンプライアンス委員会と連携の上、コンプライアンス体制の適正な運用状況を監査し、適宜取締役会に報告しています。それを受け、取締役会は監査役会に内部監査の実施状況などを報告しています。

なお、コンプライアンス、環境、品質、財務、法務、災害、情報および輸出管理などに関わるリスクについては、それぞれの担当部署において規則やガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成や配布などを行っています。

また、金融商品取引法に対応するため、J-SOX委員会を設置し、内部統制制度の導入のための企画立案、各種業務の文書化と有効性評価および是正を推進し、信頼に足る内部統制制度の実現を進めています。また、グループ会社についても同様の施策を講じ、当委員会の是正助言などにより、ウシオ電機に準じた体制の整備を目指しています。このほか、グループ会社の業務の適正性については、四半期毎に報告を義務づけ、かつ当社の業務監査室が適宜監査を実施しています。

ウシオ電機内部統制図



- \*1 事業活動が適法かつ適正に行われているかを監査し、是正を勧告する部門
- \*2 経営に関する法令遵守と企業倫理確立を推進し、監視・検証する部門
- \*3 環境に関するリスクを監視し、是正を勧告する部門
- \*4 規制貨物などが諸法令に違反して不正に輸出されることを未然に防ぐため、管理・監視する部門

(注)コーポレート・ガバナンスの模式図は、平成21年6月26日現在で記載しています。

Q 社会的責任を果たすために実際にどのような事を行っていますか？

A 業務監査を強化し、輸出法規制遵守のための仕組みや、コンプライアンス違反を防ぐための制度を構築しています。

### 業務監査の強化

代表取締役社長直轄の内部監査組織「業務監査室」が、「会社の健全かつ継続的發展に資すること」を目的に、グループ会社を含めた監査を実施しています。2008年度は国内グループ会社4社、海外グループ会社1社、ウシオ電機に関しては「安全保障輸出管理の監査」「設備投資有効性の監査」「リスク管理体制の監査」「棚卸資産（原材料）管理の監査」「製品在庫管理の監査」「長期滞留売上債権管理の監査」などを実施し、是正提言およびフォローを行いました。

さらに、2008年度から業務監査室に「J-SOX 評価グループ」が発足しました。2007年4月から取り組み、構築された「財務報告に関わる内部統制システム」の整備・運用状況について、「評価の基本計画書」に基づき、ウシオグループの財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を対象に、評価および不備などの是正提言を行いました。従来から実施している監査の結果およびJ-SOX 評価結果は、代表取締役社長、各担当取締役、監査役に随時報告しています。

### 輸出関連法規制の遵守

「輸出関連法規制遵守のための社内規則」に従って、安全保障輸出管理委員会が中心となり輸出関連法規を遵守しています。2008年度は、ウシオ電機の各事業所や営業所、管理部門のメンバーと問題や課題を解決すべく協議の場（安全保障輸出管理委員会合同会議）を設定しました。

5月より毎月定期開催し、情報の共有化、業務の標準化、グループガバナンスに向けた具体的展開が図れ、着実に進展しています。今後は新たな仕組みやシステムの導入を予定しており、体制強化を図り、安全で安心できる企業の地位を確立します。

### 通報制度

「ウシオヘルプライン」制度を2006年10月に開設しました。これは、国内における当社グループの全社員が、職場における法令違反や社内規則違反、企業倫理違反などの行為について、直接相談や通報ができる外部窓口であり、不正行為などの早期発見と是正、相談者や通報者の保護を目的としています。



「ウシオヘルプライン」ポスター

### コンプライアンス教育

ウシオ電機では、新入社員、中途採用社員、そして新任役職者前研修として、役職者への昇格試験を受験する社員を対象に、コンプライアンスに関する教育を実施しています。また、ウシオグループ社員全員に「私たちの行動指針 10」を公布する事で法令遵守の意識の強化を図っています。

### 活動の現場から

業務監査室  
数永 健二

#### 体質改善につながる監査

上杉謙信の「天地人」は「人の和」、CSRの基本は「社員一人ひとりの自律心」。「自律」の風土が醸成されるよう、法令、規程などに基づく監査に止まらず、現場の実体を良く見て、体質改善につながる監査・提言を行うよう努めています。余談ですが、私が小学生の時のクラス分けは「天組」「地組」「人組」で、3年生の時は「人組」でした。



Q 情報セキュリティや知的財産権保護の取り組みを教えてください。

A ウシオの保有する各種の情報は、ステークホルダーの方々にとって重要な情報だと認識し、管理運営の強化を行っています。

### 情報の保護・管理の徹底

ウシオ電機が事業を推進していくために保有している情報は、お取引先さまに関する情報、個人情報、営業機密などの重要なものであることを認識し、情報の取り扱いに必要なルールを定め、自社、お取引先さまを問わず、秘密情報を適切に保護することを義務付け徹底しています。また、個人情報保護法の遵守も重視しています。

運用面では遵守意識の向上と効果的な運用を図るために、運用状況の評価を部門が自己診断し、継続的に改善していくサイクルについての取り組みを始めており、全社に展開していきます。

#### ICカードによる入退室管理の運用

物理アクセスの管理面では、入退室管理と就業管理を併せて行えるよう、ICカード式入退室管理システムを導入しています。これによって、重要な区画へのアクセスの制限や記録を行い、重要な情報への不適切なアクセスを防いでいます。

### 知的財産権保護の取り組み

ウシオ電機では自社の権利を保護すると同時に、他社の権利を尊重し、以下の取り組みを行っています。

1. 産業財産権、著作権およびその他の知的財産権に関する法令を遵守しています。
2. 自社の知的財産権が他社に犯されあるいは他社のものを犯すことがないように、リスク管理に努めています。
3. 事業展開に合ったタイムリーな出願および権利化を図り、積極的な企業活動に貢献しています。
4. 海外出願する国や地域、出願の内容について検討を行い、海外における競争力強化に努めています。
5. 社員全員が職務発明に関わる管理規程を理解し、これを遵守しています。

### CSRトピックス

#### 日系優良企業ランキング「PRISM」で総合44位

ウシオ電機は、多角的企業評価システム「PRISM」\*（日本経済新聞社、日系リサーチ）による優良企業ランキングの2007年度総合順位で44位にランクインしました（調査対象は国内2,251社）。「柔軟性・社会性」の項目では環境経営、リスク管理への取り組みや、積極的な海外の投資家向けのIR活動が評価の対象となっていますが、全ての項目でのバランスのよい取り組みが評価されました。

#### \*多角的企業評価システム「PRISM（プリズム）」とは

日本経済新聞社、日経リサーチが共同開発した企業評価システム。「柔軟性・社会性」「収益・成長力」「開発・研究」「若さ」の4つの評価項目と専門家による総合評価から、優れた企業をランキングする。財務データなどの公表数字だけでなく、企業活動や組織体制まで多角的に評価しているのが特徴。（参考 2008.3.10付け 日経産業新聞）

#### SRI※インデックスへの組み入れ

ウシオグループでは、企業としての持続的な発展を図るために、社会的責任を果たしてまいりました。その社会活動が評価されて、英国のFTSE4 GoodIndex（2004年より6年連続）などのSRIイン

デックスや、損保ジャパン・グリーン・オープン（ぶなの森）などのSRIファンドに組み込まれています。

#### \*SRI：社会的責任投資

企業の活動を売上高や収益といった経済的指標だけでなく、社会的・環境的な取り組みも評価を行い、SRIはこういった社会的責任を果たしている優良な企業に投資しようというものです。



### グループの活動から 緊急事態訓練

リスク管理の一環として、ウシオグループでは各事業所ごとに防災訓練を行うなどさまざまな事故の予防に取り組み、防災に関する意識を高めています。



台湾ウシオライティング消防演習



日本電子技術防災訓練

### 中期ビジョン

#### 1. デジタルシネマ事業の着実な展開とノンシネマ事業への取り組み

3D映画の公開にあわせて、北米のみならず、欧州、アジアでもデジタルシネマが普及すると思われます。また、映画以外の用途（ノンシネマ）の事業や、メンテナンス・サポートビジネスも拡大していく計画です。

#### 2. 環境を念頭においた事業展開

環境問題のソリューションを事業化していきます。LEDを使用した電球など、環境配慮製品の開発を促進します。

#### 3. 固体光源の事業展開

半導体レーザ、LED など、固体光源の事業展開を積極的に進め、ユーザーに多様な光源を提供していきます。

#### 4. 業務提携、合併事業、M&Aの積極的推進

従来ウシオグループでは、継続的に業務提携やM&Aを行ってきましたが、新事業を展開し高い成長率を実現するためには、M&A および事業提携が重要な手段と考えており、この時期をむしろ好機ととらえることで、さらに推進します。

#### 5. 最先端露光事業の開発強化

2008年にウシオの100%子会社となったドイツのエクストリーム社を中心に、提携先のオランダフィリップス社とともに EUV 光源の数年後の量産レベルを視野に入れ、積極的な開発を進めています。

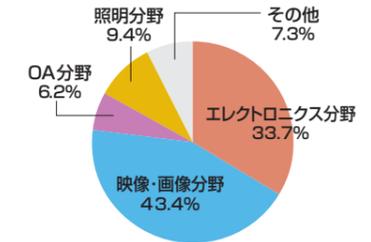
#### 6. 液晶・半導体・高精細プリント基板分野に貢献する技術・製品の提供

光源と装置の複合技術を活かした取り組みにより、これら業界に必要とされる技術・製品を提供します。

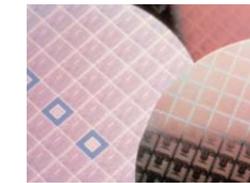
#### 7. 新製品・新分野への積極的取り組みと既存製品の強化

医療分野における血液分析装置や紫外線治療器など、これら新規事業をさらに展開し、同時に既存製品の競争力をアップしていきます。

### 事業別売上高構成比 (2009年3月期)



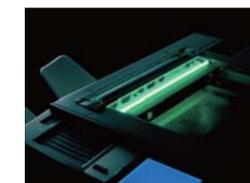
#### エレクトロニクス分野



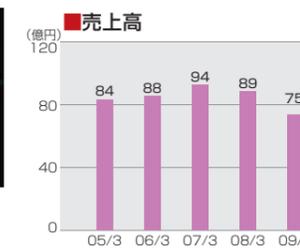
■主なグループ会社  
ギガフォトン株式会社  
XTREME technologies GmbH



#### OA分野



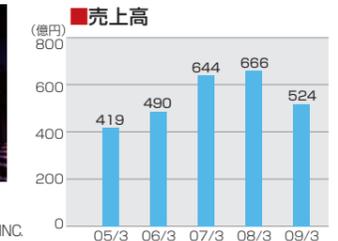
■主なグループ会社  
USHIO HONG KONG LTD.  
USHIO (SUZHOU) CO., LTD.



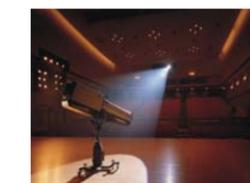
#### 映像・画像分野



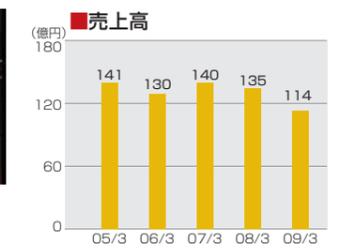
■主なグループ会社  
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A. INC.  
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.  
株式会社ジーベックス  
クリスティ・デジタル・システムズ 日本支社



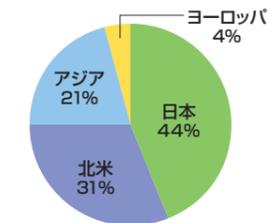
#### 照明分野



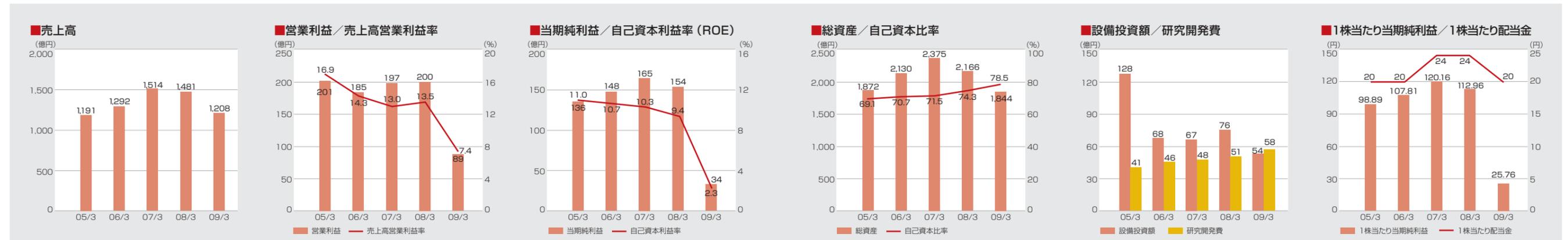
■主なグループ会社  
ウシオライティング株式会社  
株式会社ウシオスペース



### 所在地別売上高構成比 (2009年3月期)



### 主な経営指標の推移



Q 社員に対する基本姿勢を教えてください。

A 創業以来、「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させる」企業を目指しています。

### 人材育成・教育研修

教育環境を整え、組織を通じて自己実現できる自立した人材の育成を目指しています。

#### 階層別研修

組織の活性化・活気ある職場風土醸成のため、階層別研修を充実させています。組織の活性化を推進し、人間関係力の向上とオープンで公正な人事考課の実践を通じて、社員一人ひとりのモチベーションの維持向上を図っていくために評価診断ならびに評価研修を行っています。また、2008年度より中堅社員研修を導入。多面的な視野を持つ社員に育てることを目的としています。



中堅社員研修風景

#### 職能別研修

職務に直結した Off JT・OJT を各部門で運営し、専門知識のスキルアップだけでなく、モチベーションアップ・小集団活動を通じた改善活動、コミュニケーション、情報の共有化など、職場に密着した研修をサポートしています。

#### ウシオの教育研修制度



#### 国際化研修

##### ●留学制度

専門的知識、技術の習得ならびに国内外の文化・知識の吸収による国際的視野を持った社員を育成しています。

##### 自己啓発援助

##### ●通信教育

語学、技術系基礎講座や資格取得のための講座に加え、マネジメントからパソコンスキルまで幅広く、2009年度は約320講座をラインアップしています。修了すると奨励金を支給するなど、社員の学習意欲に応えています。2008年度は延べ566講座の受講がありました。

##### ●TOEIC試験

社員が自己の英語レベルを把握、レベルアップを図ることを目的として、希望者にTOEIC試験を実施し、受験料の一部を会社が補助しています。2008年度は延べ199名が受験しました。

#### 熟練技能訓練道場

播磨事業所における放電灯製造部門では、長年に培ってきたベテラン作業者の技能・ノウハウを若手の社員に伝承すべく熟練技能訓練道場があります。

ランプの製造工程は非常にデリケートであり、技能・ノウハウの伝承が品質維持の観点でも非常に重要です。熟練技能訓練道場には、ウシオグループの海外製造拠点からも研修生が招かれ、技能の修得に汗を流しています。

熟練技能訓練道場において技能・ノウハウを伝承するのは、会社から「マイスター」として認定された社員です。「マイスター」の設定基準は高精度な特殊加工などの「熟練技能者」として、卓越した能力があり「技能伝承・後継者育成」に熱心かつ伝承できる「指導力」がある事です。



「マイスター」認定バッジ

海外製造拠点からの研修生と(ウシオフィリピンより来日)

### ワークライフバランスの推進

#### 両立支援制度

ワークライフバランスの一環として、育児休職をはじめとし、法定水準を上回る支援制度を整備しています。

また、2009年3月に、仕事と子育ての両立支援制度や母性保護、部下から妊娠報告を受けた場合の上司の対応方法など制度を利用する社員およびその上司の心得を記載した「両立支援ハンドブック」を発行しました。社員が安心して長期的なキャリアを育て能力を発揮してもらうとともに、社員同士がお互いに働きやすい環境を作ることを目的としています。



両立支援ハンドブック



くろみんマーク

#### 両立支援制度活用状況

制度	期間	2007年度		2008年度	
		女性	男性	女性	男性
育児休職制度	子が1才となった次の3月末日まで*	25	2	23	0
介護休職制度	被介護者1人につき、通算1年	0	0	1	1
短時間勤務制度	育児：子が3才となった次の3月末日まで 介護：被介護者1人につき、通算1年	23	0	24	0

\*子が1才となった次の3月末日が1才半未満の場合、1才半まで延長できる。

\*\*2009年3月31日現在従業員数1,721名

#### 時間外労働の削減・有給休暇取得の促進

ワークライフバランスの観点から、家族・友人と過ごす時間や自己啓発の時間を確保し、メリハリある職場環境の構築を行うことを目的とし、ノー残業デーや計画年次有給休暇の実施を行っています。

### 高齢者と障がい者雇用

#### 再雇用制度

高齢者雇用についても積極的に支援するため、最長65歳までの再雇用制度(シニアパートナー、シニアエキスパート制度)を設けており、多数の社員が利用しています。

#### 障がい者雇用

障がい者雇用率は法定の1.8%を超える1.93%です。障がい者雇用促進のため、職場見学会を開催、合同説明会への参加、地域の学校に対し積極的に求人活動を行うなどしています。また、トイレのドアを引き戸にしたり、階段に手すりをつけるなど、事業所のバリアフリー化などを進めています。

今後も、障がい者の雇用促進に努めるとともに、障がい者が働きやすい職場環境の整備を行ってまいります。



バリアフリー化したトイレ

#### 活動の現場から

管理総括 人事部

辺見 香

社会情勢の変化、多様化する価値観により、会社も社員も日々変化を求められています。このような中、ウシオで働く社員の個性と価値観が尊重され、ステップアップできる環境作りをサポートしていきたいと思っています。



Q お取引先さまとの関係で重視している事はなんですか？

A 公正・公平な取引を心がけ、お取引先さまとともに持続的な発展を目指しています。

### CSR・公平な調達

ウシオ電機では、独占禁止法、下請法の遵守を図ると同時に、お取引先さまとの共存・共栄を意識した調達を行っています。公平・公正で自由な競争の実現のため、国内外を問わず、幅広く優良なお取引先さまを求め、品質・コスト・納期・環境などの観点から、お取引先さまを評価、選定し、環境や品質の監査も行っていきます。また、お取引先さまからの設計不適合の指摘、VA提案も積極的に検討しています。

### グリーン調達

ウシオ電機では、「環境保全活動の維持・向上を進める事により、地球・社会・顧客の要望に配慮・対応した事業活動を通じて社会的責任を果たす」という環境方針のもとに、「グリーン調達基準」を設けています。ウシオ電機の調達方針を広く理解していただくと同時に、全てのお取引先さまに迅速にかつ平等に情報を入手していただく目的からホームページ上で公開しています。

なお、グリーン調達活動に関する情報はP30の「グリーン調達の取り組み」章もご参照ください。

### エコアクション21取得推進

ウシオ電機ではお取引先さまと共存・共栄の関係を築くために2006年度からエコアクション21(EA21)の説明会を開催しています。これまで、システムカンパニー84社、ランプカンパニー13社のお取引先さまに参加いただきました。2008年度には、EA21説明会を拡大・発展させ、EA21認証取得講座を開始しました。参加のお取引先さまには担当のアドバイザーがつき、EA21認証取得まで支援するというものです。システムカンパニーでは14社、ランプカンパニーでは13社に参加していただき、EMSの構築に力をあわせています。

この結果、2009年3月現在、システムカンパニーでは、5社が認証取得の見込みであり、3社が審査待ちです。また、ランプカンパニーでは、

1社が認証を取得し、11社が審査準備を進められています。今後もお取引先さまと一体となった環境への取り組みを行い、パートナーシップの構築に努めます。



エコアクション21の説明会

### 活動の現場から

株式会社 平田精機 代表取締役社長  
藤元 佳子様

#### 環境リスクの低減に向けて

ウシオ電機の環境に対する取り組みをいち早く理解し、エコアクション21の認証取得をいたしました。EA21を取得するには、社員全員の環境取り組み意識が重要であるので、社員教育に最も力を入れました。EA21の取得をきっかけに社員の間でも協調性が生まれ、良かったと思います。環境方針に製造工程での電気使用量の削減を掲げており、使用量の削減はムダをなくすことですので、加工方法の見直しにつながり生産性向上にも大きく寄与しました。その考え方が今を支えています。

今後もウシオ電機における変化を敏感に捉え、迅速に対応できる体制を維持しながら、あらゆる面でご協力したい考えです。



### 活動の現場から

システムカンパニー 生産部門 資材部  
藤原 久

#### Q、C、D+Eで共存共栄の 関係構築を強化!

当社とお取引先さまの間には常にQ(品質)、C(コスト)、D(納期)を意識したお取引が重要となっております。昨今環境に対する関心が高まっている状況では、これらに加えE(環境)に関してもお取引の重要なファクターとなってきております。お取引先さまにおいて、環境に対する取り組みを積極かつ取り組みやすいよう、今後もエコアクション21の認証取得講座を開催し、1社でも多くのお取引先さまが当社の環境取り組みを理解され、健全なお取引関係が継続的に築けたら良いかと考えております。



Q 品質保証についての姿勢を教えてください。

A お客さま第一の考えのもと品質方針を定め品質向上の取り組みを行っています。

### 品質方針

ウシオ電機ではランプカンパニー、システムカンパニーそれぞれ扱う製品、市場のニーズにあった品質方針を作成し、この品質方針に基づいて品質向上の取り組みを行っています。

#### ●ランプカンパニー

私たちは『お客さま第一』の考えのもと、顧客ニーズを的確につかみ、製販一体となって、魅力ある商品をスピーディーに企画、開発、生産し、顧客の満足と信頼にタイムリーに応える。

#### ●システムカンパニー

- ①品質第一に徹して最新技術の製品を開発し、顧客の要求と信頼に応える。
- ②品質マネジメントシステムの要求事項を遵守し、その有効性の継続的な改善に取り組み、品質の向上(不具合発生ゼロを目指す)と品質保証体制の改善に努める。
- ③顧客との情報の共有化を図り、安全性と信頼性の高い経済的な製品を提供し顧客満足度の向上に努める。

### お客さまの声を活かす仕組み

#### システムカンパニー

##### ●ユーザーの声をデータベース化し活用

お客さまのご要望・ご意見・不具合の情報は、データベースにて一括保存・管理し、製品開発・サポートに活用しています。また、液晶・半導体製造装置については、お客さまの個別仕様に対応する必要があり、製造段階から製品の品質をタイムリーに把握するため、リストを作成。関係部門で情報共有することで、出荷前に問題点の対策を完了させる活動を実施し、社内品質コストを大幅に削減することに成功しました。

##### ●残件ポイントの管理

継続的な取り組みとしては、残件ポイントの管理を実施しています。残件ポイントとは、「お客さまのご要望1件に対しサポートが完了しなければ、1か月経過につき1ポイント加算」するものです。毎月経営トップが出席する会議にて、ポイント数を確認し、増加傾向が見られた場合その原因と対策を検討し常にタイムリーな対策を打っています。その結果2007年までの活動で削減した残件ポイントを、目標値以下で維持しています。

#### ランプカンパニー

##### ●顧客アンケートの実施

ランプカンパニーではビジネスユニットごとに、品質保証部署が主管となって、アンケートの実施やお客さまとの品質会議や訪問による情報交換などを通じて満足度の収集と分析を行い、品質の向上を図っています。特にお客さまへのアンケートは毎年実施し、「昨年より良くなっているかどうか」をポイントで比較し、さらなる改善のために活かしています。

### 海外生産拠点との連携

ドキュメント ビジネスユニット(BU)向け製品を製造している、中国にある各生産工場ではQAスタッフがまず自己評価を行い、これをお客さまのアンケート結果と比較し、差が大きい部分にポイントを置いた改善活動を進めています。また、分析装置等の増設でウシオ広州の品質対応機能を拡大し、蘇州工場や番禺委託加工工場に対するサポート体制の充実化を図っております。また、フォトリソBU、オプトBU、プロジェクトBUでは、韓国や欧州の販売拠点と協働で、お客さまの高い要求品質に応えられるよう不具合低減活動を開始しています。

#### グループの活動から

### デジタルシネマプロジェクトの稼働率が 99.99%を達成 (CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, INC.)

デジタルシネマプロジェクト CP2000 シリーズの稼働時間(不具合によって中止ならず予定どおり上映された時間)が、北米の映画館・劇場で99.99%を達成しました。新NOC(ネットワーク)にてリモートモニターを構築し、プロジェクトならびにシステム稼働時間をモニターしており、これらの高い性能を確認することができました。

### 活動の現場から

ランプカンパニー 第三事業部門  
品質環境統括室 第二品質保証部

黒川 幸生

ランプカンパニーにおける各製品のアジア生産拠点のお客さまへの品質サポート体制は確立できました。さらに、ウシオ広州にランプ・電源の評価・測定・解析を可能とする測定機、分析装置などを整備し、スピーディーな対応を可能としました。



Q 社会貢献活動をどのように捉えていますか。

A 学術支援、文化活動支援に積極的に取り組むと同時に、社員は地域行事などに参加し、地域との交流を深め広く社会貢献に寄与しています。

### 生態系保全の取り組み

#### 森林ボランティア活動

##### ●近隣の里山整備 (ウシオ電機 播磨事業所)

NPO 法人「ひょうご森の倶楽部」の森林ボランティア活動に、毎月ウシオ電機の社員も参加し、近隣の里山整備を行なっています。2008年11月の「漁業者の森」づくり、「ひょうご森の倶楽部」の指導スタッフの一員として参加するなど、幅広い活動を行っています。



「ひょうご森の倶楽部」の活動に参加

##### ●「かながわ森林づくり公社」主催の間伐に参加 (日本電子技術)

2008年10月「かながわ森林づくり公社」が主催しているボランティアに参加しました。神奈川県は、約95,000ha、県土の約4割で、このうち人工林は民有林面積の約40%を占めます。しかし、林業の低迷などから十分な手入れが届かず荒廃しこのままの状態が続くと土砂崩れや洪水などを引き起こしてしまうかもしれません。そんな状況の森林を守り育てていこうという目的で間伐が行われています。



「かながわ森林作り公社」ボランティアへ参加

#### サイプレス市 植樹祭に参加 (USHIO AMERICA, INC. CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC)

毎年4月5日は ArborDay として全米各地で植樹が行われています。クリスティ・デジタル・システムズ U.S.A. とウシオアメリカは共同で地元サイプレス市に柳の木とペパーミントなどを 2008 年度より寄贈を開始しています。植樹は、二酸化炭素を減少させて地球温暖化の防止に貢献できる身近な活動と考え、今後も継続的な支援を行っています。



植樹の様子

### 社会との共生の取り組み

#### ユナイテッド・ウェイを通じた地域貢献 (CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC)

クリスティ・デジタル・システムズ カナダは、毎年恒例になっているユナイテッド・ウェイ (ボランティアや NPO 活動の資金源として、大規模に寄付を集め配分する非営利団体) キャンペーンを実施しました。2008 年も継続して主導的な協賛法人「ペースメーカー\*」として認められ、ボランティアが中心となって、ユナイテッド・ウェイ支持のさまざまなイベントを社内で行いました。10月20日からの1週間、こうした活動で集まった寄付金は、6 万カナダドル (約 430 万円) を超えました。

\*「ペースメーカー」とは、ユナイテッド・ウェイ公式のキャンペーンの始まりの前に、財政的に寄付ができる団体・個人を指します。

#### ペットボトルキャップの回収によるワクチン支援 (ウシオ電機)

ペットボトルのキャップを集め、再資源化で得た売却益で発展途上国の子どもたちにワクチンを贈る「キャップの貯金箱」活動に参加しています。本社・東京営業本部で秋からの活動を始め、全部で 34kg、13,600 個のペットボトルのキャップを回収することができました。このキャップでポリオ (小児麻痺) ワクチンなら 17 人分、BCG (結核) であれば、48.6 人分になります。

#### 義援金活動

##### ●南カリフォルニアの山火事への義援金活動 (USHIO AMERICA, INC.)

2007年10月に発生し、焼失面積が全体で 2,000km<sup>2</sup>、家屋などの消失被害が 1 万 5 千棟におよんだ南カリフォルニアの山火事に対し、社員の募金として 525ドル、ウシオアメリカの義援金として 3,000ドルの合計 3,525ドルをアメリカ赤十字社に寄付しました。この山火事に際してはウシオアメリカのアーバイン工場も一時閉鎖を余儀なくされました。

##### ●四川大地震への義援金活動 (中国内ウシオグループ各社)

2008年5月に発生した、四川大地震の未曾有の被害に対し、中国内のウシオグループ各社と、番禺委託加工工場の社員で募金活動を行い、合計金額 187,500 元の義援金を各慈善団体に寄付しました。

### 環境コミュニケーション

#### 姫路・高砂両市役所を訪問 (ウシオ電機)

2008年7月、播磨事業所では「ステーキホルダーの方々とのコミュニケーション強化」の一環として姫路、高砂の両市役所を訪問し、ウシオの環境活動や地域社会における環境取り組みについて意見交換を行いました。

#### ウシオフェスティバル開催 (ウシオ電機)

夏休み中の子どもたちに環境問題を少しでも身近に感じてもらうと、「ウシオフェスティバル2008」では事業所内の食堂の廃油を利用して作られた「エコキャンドル」の紹介を行いました。夜には食堂の照明を落とし、エコキャンドルによるキャンドルナイトを演出し資源や地球温暖化の問題について考えてもらう絶好の機会となりました。



エコキャンドルナイト

#### アースデー環境教育 (USHIO AMERICA, INC. CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC)

2008年4月22日の「地球の日 - EarthDay」には世界各地で環境の重要性を認識し、大切な資源を守るための取り組みがいろいろ行われました。クリスティ・デジタル・システムズ、ウシオアメリカでは環境問題に関する展示やプレゼンテーション、クイズイベントを開催しました。



アースデーイベント

#### ライトダウンキャンペーンに参加 (ウシオ電機)

夏至にあたる6月21日を「ブラックイルミネーション2008」、七夕と洞爺湖サミット初日にあたる7月7日を「七夕ライトダウン」と名付けた環境省主催の「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウン



姫路駅前広告灯消灯

キャンペーン」に参加し、主要屋外看板や広告看板を消灯しました。これを契機に、屋外主要看板については、土曜、日曜、休日の夜間の消灯を継続実施しています。

### ウシオグループの学術支援活動

#### ウシオ育英文化財団の活動

ウシオ育英文化財団は人材育成、学術・文化の発展に寄与する事を目的に1994年、ウシオ電機創立30周年記念事業として設立。学生への奨学金や学術研究・文化活動の助成などの事業を行っています。



メシアンプロジェクト

2008年度は大学院生 (留学生含む) 40名、大学生1名、高等専門学校専攻科生9名に奨学金を支給しました。また、文化助成として国際的に活躍されている日本人ピアニスト児玉桃さんへ助成金を支給しました。児玉桃さんは、20世紀音楽界の巨匠オリヴィエ・メシアンの生誕100年を記念して「メシアンプロジェクト」を開催し、この活動の功績により、平成20年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞されました。

#### ウシオグループ 江蘇牛尾英才助学基金会を設立

ウシオグループの牛尾電機 (蘇州) 有限公司は2008年9月に中国江蘇省において初の外資による教育事業への貢献を目的とした非営利性基金会「江蘇牛尾英才助学基金会」を設立しました。基金会は、経済的な理由で大学進学・進級が困難な中国の地方部において、人材育成を中心に、科学研究、技術開発などの公益事業に貢献する事を目的としています。2009年1月には事業第一号として蘇州大学との間で「蘇州大学牛尾電機奨学金」制度の協議書を締結しました。



「蘇州大学牛尾電機奨学金制度」の締結

## 環境マネジメントシステム

### 2010年ウシオ環境ビジョン

ウシオグループは、循環型社会・低炭素社会の実現に向けて2010年環境ビジョンを定め、第二期環境行動計画を遂行し

#### 2010年ウシオ環境ビジョン

- ・環境活動と経営の一体化による環境生産性の向上\*
- ・環境に配慮した製品性能向上活動の拡充。
- ・製品・生産活動の環境リスクマネジメントの強化。

※環境生産性の向上 生産活動(TPM)にマテリアルフローコスト会計(MFCA)を連携強化し、環境視点から生産性の向上を図り、環境調和型プロセスにより市場競争力のある製品・サービスを生み出していくこと。具体的には生産工程に投入する資源・エネルギーを効率的に活用し、廃棄物の削減や再利用まで視野に入れた経済的付加価値を生み出すマネジメントを行うこと。

ています。「環境経営」「環境に配慮した製品性能向上活動」「環境に配慮した事業活動」「環境社会貢献活動」の4つのテーマを、5つの課題別委員会が各サイトの活動に展開し、推進しています。

### 環境経営推進体制

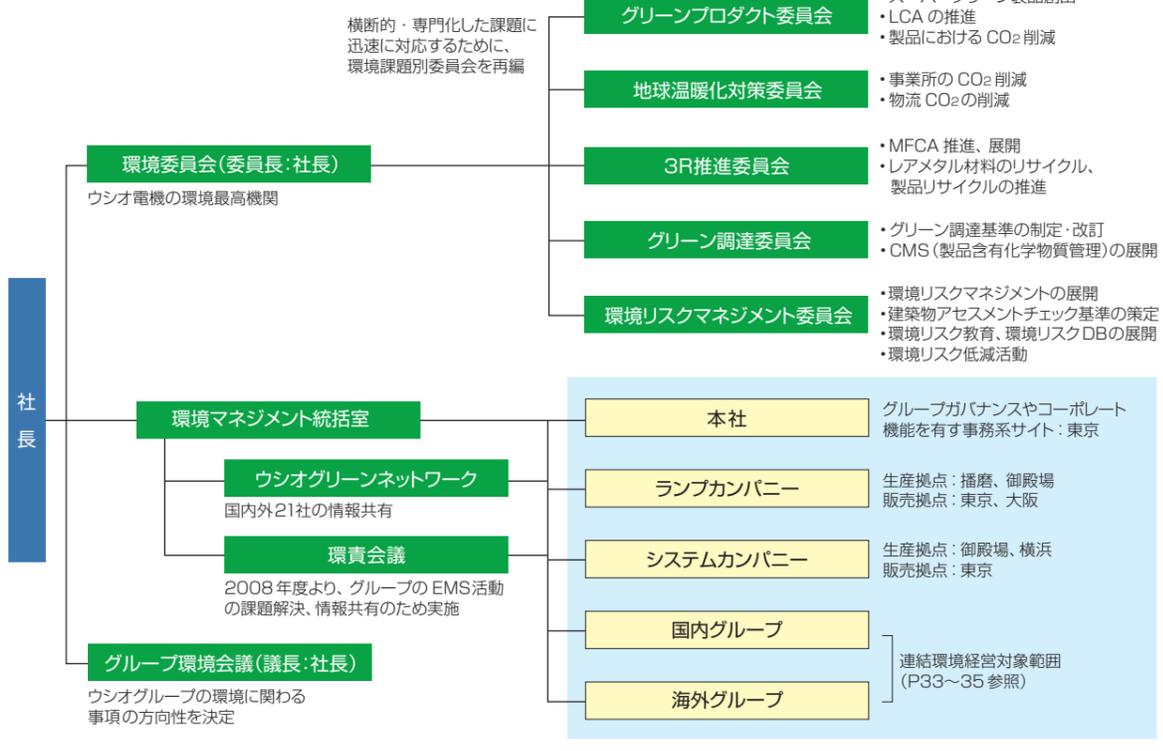
「環境委員会」、「グループ環境会議」はそれぞれ社長を委員長、議長とし、ウシオ電機の環境に関する最高決定機関、ウシオグループの環境方針の決定機関です。

環境委員会の直下に5つの「課題別委員会」があります。

環境委員会、グループ環境会議、および課題別委員会の審議、決定事項などは、「環境マネジメント統括室」および「ウシオグリーンネットワーク(UGN)」を通じ各カンパニー、グループ会社に周知を図っています。

各カンパニー、グループ会社は、自立的に環境活動を推進し、全体目標を達成します。

#### ■グループ環境経営組織図



### 2020年環境ビジョンを策定

ウシオグループでは、2010年環境ビジョンの後を見据えて、2020年環境ビジョンを策定しました。引き続き、低炭素社会、循環型社会の実現に向けて取り組むと同時に、生物多様性社会の実現に向けてウシオグループが貢献できる事を

#### 2020年ウシオ環境ビジョン

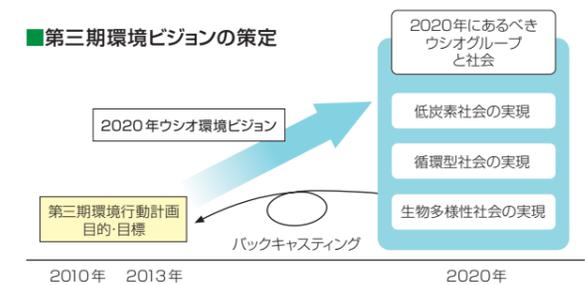
光のイノベーションを通じて、  
 ・低炭素社会づくり  
 ・資源の節約  
 ・生物多様性の保全  
 に貢献します。

2010年よりスタートする「第三期環境行動計画(3カ年計画)」の中で具現化していきます。

●第三期環境行動計画の策定にあたっては、2020年に実現すべき環境社会の姿よりバックカスティングを行う事で具体的な目標へのブレークダウンを行っていきます。

また、ウシオグループ各サイトと綿密に意見交換を行い、それぞれ地域特有の事情にも配慮した行動計画目的・目標の策定を行っていきます。

#### ■第三期環境ビジョンの策定



### グループガバナンス強化『G8』の取り組み

ウシオグループ全体の環境の取り組みは、各社の独自性を活かしつつ、2005年2月に「グループ環境会議」で制定した「グループ環境ガバナンス(環境経営基盤)の強化8項目」にしたがってベクトルを合わせています。

2008年度以降は、ウシオグリーンネットワーク(UGN)の活動に加えて、各サイトの環境責任者による会議体を設け、問題の共有化、相互の啓発を通じてグループ環境活動の一体

#### グループ環境ガバナンス(環境経営基盤)の強化8項目(G8)

1. 環境活動は全グループ会社で実施する
2. ウシオの環境行動計画はグループ全体の目標とする
3. 国内はISOで活動し、海外はISOあるいは自主的なEMSで活動する
4. 製造系の会社はISOで活動する
5. 環境活動の実施状況を内部監査でチェックする(相互監査の実施)
6. 環境コミュニケーションは環境マネジメント統括室を通じて一本化する
7. 環境パフォーマンスデータ、環境会計などの環境情報を公開する
8. グループ環境保全活動を支援する

化を深めることを図っています。2008年度はアジア地域、国内関東地域、および北米地域との環境責任者会議を実施し、2009年度以降の行動計画目標について協議を行いました。



ウシオ蘇州における合同環境責任者会議

### ウシオグループのEMSの構築

2008年度は新たに、USHIO HONG KONG LTD.、USHIO SHANGHAI, INC. が ISO 14001 の認証を取得し、認証取得会社は国内6社、海外10社となりました。(詳細はP33~35をご参照ください。)

#### グループの活動から

##### 内部監査員教育訓練実施(USHIO TAIWAN, INC.)

ウシオ台湾では、2008年5月から6月にかけて、ISO推進メンバーに対して内部監査と環境に関わる法律に基づいた審査に関する監査員の教育訓練を実施しました。内部監査のレベルをアップし、PDCAサイクルの良く動く環境活動の推進を目指します。



ウシオ台湾 ISOメンバー勉強会

第二期環境行動計画（2007年度～2009年度）に基づく2008年度の活動の実績と評価を報告します。

環境生産性効率向上では、MFCA の活用で成果をあげましたが、環境生産性指標目標の未達、環境配慮型製品開発では、SG 製品については目標未達、CO<sub>2</sub> 排出量削減では、

グループ目標、物流関連目標は達成しましたが、ウシオ単体目標は未達となり、それぞれのテーマの評価は、△となりました。

最終年度の2009年度は、総仕上げと第三期環境行動計画への継承を目的として進めていきます。

第二期環境行動計画 目的・目標 2008年度実績、2009年度目標

評価：○ 目標通り達成、△ 取り組んではいるがいま一步の成果、× 60%以下の達成

環境テーマ	推進部門	目的・目標	2008 年度目標	2008 年度主な活動実績	評価	2009 年度目標	関連ページ	
1. 環境経営	環境ガバナンスの強化	環境マネジメント統括室	グループ環境マネジメントシステムの確立	グループ環境マネジメントシステムのレベルアップ ウシオ環境活動ガイドライン充実（英文版など）	次期環境ビジョンの策定 グループ2社でISO14001取得 環真会議の開催（北米地域、アジア地域、国内）によるグループEMSの強化 合同内部監査員教育の実施 ECO-SYSによる各サイトにおける環境指標分析の実施	○	グループ環境マネジメントシステムのレベルアップ	P21 P31
	環境と生産活動の連携強化による環境生産効率向上	地球温暖化対策委員会 3R委員会	経営に直結した環境情報を可視化し、環境生産性の向上を図る（環境生産性2006年度比1.2倍）	（単体）環境生産性2006年度比1.1倍 マテリアルフローコスト会計（MFCA）の実施	目標の約50%の達成に留まる（経済情勢の悪化による） UVランプ製造工程において、全工程のMFCAを実施 バルブ加工工程で燃焼ガスを10%削減 素材ガラス管からの製品の取り数を3個から4個に増加	△	2006年度比1.2倍 経済情勢の変化に対応した施策を行い目標の達成を目指す	P24 P28
	環境リスクマネジメントの強化	環境リスクマネジメント委員会	環境リスク対策強化による環境リスクの低減	環境リスクマネジメントガイドラインの海外グループへの導入 環境リスク教育プラットフォームの導入	環境リスクマネジメントガイドラインを国内外グループ拠点に展開 環境リスクマネジメント教育を国内外グループで順次実施 ウシオ電機役員研修として環境リスクマネジメント教育、環境リスク感性向上トレーニングを実施 グループ各拠点にて環境リスク巡回、ハザードマップの作成の活動を実施	○	各サイトにおいて環境リスク低減の活動の推進	P29
2. 環境に配慮した製品性能向上活動	環境配慮型製品の拡大	グリーンプロダクト委員会	環境配慮型アセスメント基準のグループ会社への展開 スーパーグリーン製品の創出	スーパーグリーン製品の創出 主要製品のLCA実施率50%	スーパーグリーン製品候補を選定 ランプカンパニーでは主要製品においては50%以上のLCA実施 SHBU製品はLCA実施100%達成 LCAを効率的に実施できるよう、共通化できる製品群の系統図を作るなど仕組みを構築 環境法規制分科会による、調査・報告を実施	△	各ビジネスユニット（BU）ごとにスーパーグリーン製品を創出 主要製品のLCA実施率100%	P26 P27
	製品リサイクルシステムの拡大	3R委員会	製品リサイクルシステムの確立	製品リサイクルシステムの確立	広域認定による使用済み製品の回収・リサイクルを開始	○	製品リサイクル量の拡大 製品リサイクルシステムの展開	P28
	製品含有化学物質対策の推進	グリーン調達委員会	特定有害物質の削減・代替・全廃による市場のグローバル化対応	グリーン調達基準・化学物質管理基準のアップデート 環境対応力の向上のための運用体制強化・グループ間の連携	社内外より入手した法規制情報を元に法規制等登録検討会で検討し、随時法規制等一覧表に登録 顧客の環境要求への対応力強化のため、調査フローを進捗管理データベース化 含有化学物質の効率のよい管理を行うため、製品への含有物質の管理のデータベースを構築、試験運用を開始 国内外グループへのCMSの水平展開の継続実施 取引先のエコアクション21取得支援実施	○	化学物質管理システム（CMS）の運用強化・グローバル展開 環境情報に基づくグリーンサプライチェーン活動の強化	P16 P30
3. 環境に配慮した事業活動（オフィス含む）	地球温暖化対策の強化（省エネルギー対策）	地球温暖化対策委員会	実質売上高CO <sub>2</sub> 原単位を1990年度比47%以上削減 物流改善によるCO <sub>2</sub> 排出量を2006年度比10%以上削減	（単体）実質売上高CO <sub>2</sub> 原単位を1990年度比45%以上削減 （グループ全体）売上高CO <sub>2</sub> 原単位を2005年度基準で2%以上削減 （単体）物流改善によるCO <sub>2</sub> の低減2006年度比8%以上削減	（単体）1990年度比実質売上高原単位削減率：25.6% （グループ全体）2005年度比売上高原単位削減率：3.2% （単体）物流起源CO <sub>2</sub> 削減率：29%	△	（単体）実質売上高CO <sub>2</sub> 原単位を1990年度比47%以上削減 （グループ全体）売上高CO <sub>2</sub> 原単位を2005年度基準で3%以上削減 物流改善によるCO <sub>2</sub> の低減 （単体）2006年度比10%以上削減	P24 P25
	廃棄物発生量の削減	3R委員会	廃棄物発生を抑制し、コスト削減 環境負荷削減を積極的に推進	（国内グループ）廃棄物処理コストを前年度比5%削減	国内グループで廃棄物処理費用を前年度比7%削減 金属廃棄物の有価物化の推進	○	（国内グループ）廃棄物処理コストを前年度比5%削減	P28
4. 環境社会貢献活動【共通活動】	ステークホルダーの方々とコミュニケーション強化	環境マネジメント統括室	ステークホルダーの方々にウシオの環境理念・環境取り組みを積極的に情報公開する	CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」の継続発行 CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」英語版の継続発行 英語ダイジェスト版の継続発行	CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」の継続発行 CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」英語版の継続発行 各種展示会で環境取り組みの情報提供 社内報などグループ内への環境取り組み情報提供	○	CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」の継続発行 CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」英語ダイジェスト版の継続発行	表2 P18、P19
	社会貢献プログラムの強化（拡大）	環境マネジメント統括室	地域および地球環境への環境貢献	社会貢献活動の普及 環境イベントの開催（継続）	社会貢献情報の社内提供 夏祭り、展示会などでの環境啓発活動実施	○	社会貢献活動の拡大 環境イベントの開催（継続）	P18、P19

Q 第二期環境行動目標計画に対する、CO<sub>2</sub>削減の進捗状況はどうなっていますか？

A 省エネ活動は確実に実績をあげていますが、経済環境の悪化により目標達成はなりませんでした。

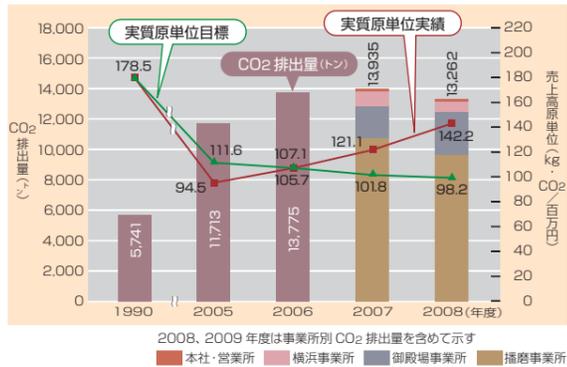
### 2008年度のCO<sub>2</sub>削減状況

ウシオ電機単体のエネルギー消費によるCO<sub>2</sub>排出量は、実質売上高原単位で、1990年度比26%減と目標未達の結果となりました。

CO<sub>2</sub>排出の絶対量では、前年度を下回っています。減少の要因は、経済環境の悪化による生産設備稼働率の低下と省エネ活動によるものですが、主に設備の稼働率低下が影響しています。

グループ全体では、売上高原単位で、2005年度比3%削減し、目標を達成しました。

#### CO<sub>2</sub>排出量 売上高原単位推移(ウシオ電機単体)



・製造現場の照明を高効率のランプに交換

#### ●エネルギー標準化WGの活動

生産建屋に電力モニター(約600個)を配備し、運用を開始しました。これにより、17種類の用途別電力使用量、固定電力量が部門ごとに把握でき、適切な省エネ目標の設定が可能となりました。現在は、現場に対応したきめ細かい目標を設定し、活動の強化を図っています。

#### ●エージングWGの活動

エージング工程はランプの品質を維持する上で重要な工程であり、技術部門を含めて細かくエージング条件の検討を行いました。年間59万kWhの電力削減が可能となる条件見直しを行い、順次実施しています。

#### 〈御殿場事業所〉

●8月に「省エネ巡回」、「残業一カ所化」、「数値データ化」のチームからなる省エネ委員会を発足させ、それぞれ活動を展開しました。昼休みの消灯呼びかけによりほぼ完全消灯を実現しました。また、残業エリアを限定し、18時以降オフィスの部分消灯も実施しています。

●12月より電力監視システムが稼働し、電力の使用内訳や、深夜、休日の電力消費量が把握できるようになりました。今後、このシステムを活用し、目標を絞った省エネ活動を展開していく予定です。

#### 〈本社・営業オフィス〉

終業後の不要照明の消灯や冷暖房の設定温度の最適化の徹底、グリーンIT活動を継続実施しました。本社の例では、2007年度比2.3%の電気使用量を削減しました。

### グリーンITによるCO<sub>2</sub>削減

グループ間のTV会議システムを拡充、整備し、出張移動を減らすことにより、グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量の2%にあたるCO<sub>2</sub>削減を実現しました。

PC、OA機器の更新時には、省エネタイプの一括購入を進めています。

### 再生可能エネルギーの購入

ウシオアメリカ オレゴン工場では、ポートランド・ゼネラル・エレクトリック社が開発・運転している風力発電電力を継続

的に購入しています。

2008年の購入量は、CO<sub>2</sub>排出量に換算すると25.8t(杉の木、1850本が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>量に相当)となりました。再生可能エネルギー利用の発展のため、購入を継続していきます。



### 物流によるCO<sub>2</sub>削減

以下の施策を継続実施し、輸送に関わるCO<sub>2</sub>排出量を2006年度比29%削減し、目標を達成しました。

#### 〈播磨事業所〉

2006年度比絶対値で28%の削減(出荷金額原単位では、12.4%の削減)

- 関東地方へ出荷した際の帰り便に横浜・御殿場事業所の出荷製品を積載するなど、帰り便を有効活用した。
- 出荷製品量に合わせてトラックの便数の調整を行い、積載率の向上を図った。
- 輸出品保管・積み出しの拠点を、出荷量の多い播磨事業所に近い地区に移すとともに、事業所間の連携を強め、国内輸送

の距離を短縮した。

- 運送委託業社へエコドライブの推進を行うとともに、運転手と燃費目標値の検討を行い、燃費向上に努めた。

#### 〈御殿場事業所〉

2006年度比絶対値で59%の削減

- 部材配膳と組立品引き取りミルクラン運行し、個別輸送を廃止した。
- 小型チャーター便、積み合わせ配送を活用し、積載率を向上した。



### 活動の現場から

ランプカンパニー第三事業部門 生産技術部 企画G

吉田 真一

生産現場でも、省エネ推進によってコスト削減と地球温暖化につながるエネルギー消費(CO<sub>2</sub>)削減に向けた取り組みを行っています。昨年はエアコンプレッサの電力量削減を狙い、生産設備の制御機器を保護する冷却エアに高効率ノズルを採用し、エア流量の削減を図るなどの取り組みを行ってきました。



#### グループの活動から

#### 本社・事業所の省エネ活動(ウシオライティング株式会社)

東京本社、大阪支店、名古屋支店、福岡営業所では、不要照明の消灯、冷暖房の設定温度の最適化、終業後のOA機器等の電源OFFを、チェックリストを作って励行しました。合計で、前年度比9%の電力量削減を達成しました。

#### 空調の調整による省エネ活動(USHIO(SUZHOU) Co.,Ltd)

建物の空調を停止する時間を、終業前に設定することでエネルギーの削減を図っています。

#### 排熱利用で省エネ暖房(CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.)

プロジェクターの熱負荷検査時の廃熱を冬季の暖房エネルギーとして利用しています。3~6kWのキセノンランプを使用する大型プロジェクターを常時複数台運転しており、相当の排熱があります。点灯検査室の



室温が設定温度35℃を超えた場合、自動的に作業現場や倉庫などに排熱される仕組みとし、暖房費用を1/3~1/4に削減する効果を生み出しました。

#### 断熱効果を高める省エネ対策

日本電子技術株式会社では、資材部の出入口の窓に廃材のエアータック材を貼り、室内の保温効果を高めています。外気温が9℃の時にエアータック材を貼る前の室内ガラス表面温度が13.2℃だったのに対して、貼った状態では15.3℃と2度の保温効果がありました。



ウシオ香港では空調電力の削減の目的でメイン玄関の太陽光遮断フィルムの貼り付けを行いました。クリスティ・デジタル・システムズカナダでは、老朽化した屋根の吹き替えに際し、断熱加工を施した上、高反射率の屋根ふき材を採用、南向きの窓にウインドウフィルムを貼るなどの断熱対策を実施しています。

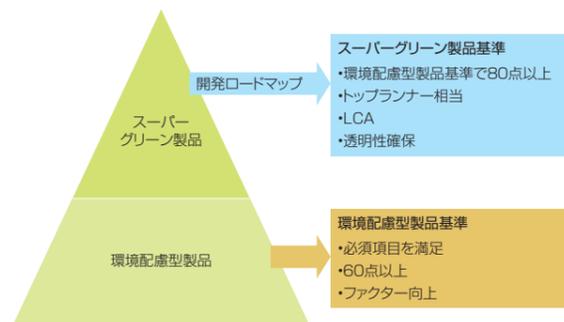
Q 環境配慮型製品の取り組みについて教えてください。

A 環境をビジネスチャンスと捉え、環境配慮型製品の創出とLCAの実施に力を入れています。

### 環境配慮型製品の開発

ウシオ電機では、設計標準に「環境配慮型製品アセスメントマニュアル」を組み込む事で、設計段階より製品が環境に与える影響を事前評価しています。この評価をもとに、環境性能を向上させた製品を「環境配慮型製品」として認定しています。さらに環境配慮型製品の中でも優れたもので、既存製品とは一線を画した革新的環境対応技術を採用した製品を「スーパーグリーン製品 (SG 製品)」として認定しています。

#### ウシオ電機環境配慮型製品の体系



### スーパーグリーン製品 (SG 製品)

SG 製品に認定されるためには、「省エネ」「長期使用」「3R 設計」「使用材料」「アプリケーション」などで優れた環境配慮がなされたトップランナー製品である事はもちろん、LCAの実施、透明性が確保されていることなど厳しい条件を満たす必要があります。厳しい審査をクリアする事のできた SG 製品には、ウシオ電機の「SG 製品シンボルマーク」をつけることができます。2008 年度は複数の SG 製品の候補が選出され審査に入っています。2009 年度には、これらの製品が SG 製品として発表される予定です。



#### SG 候補製品

##### ●フラッシュランプアニール

装置平均使用電力の削減  
ウエハ 1 枚あたりの電力量削減



### LCA の実施

ランプカンパニーでは、ランプ、電源の主要製品の LCA (ライフサイクルアセスメント) 実施率が、2008 年度に50%以上に達しました。ランプ製品では、使用段階での CO<sub>2</sub> 排出量が全ライフサイクルの90%以上を占めています。省エネタイプのランプ開発を重要課題として取り組んでいます。

参照: <http://www.ushio.co.jp/jp/eco/plan/lca.html>

### 環境法規制への対応

ウシオグループで生産するランプには、特殊な波長の光を取り出すために水銀などの化学物質を使用する場合があります。グリーンプロダクト委員会は「環境法規制分科会」を組織し、含有化学物質についてのグローバルな環境法規制情報に適格かつ迅速に対応するため、含有率の把握、表示に関する法規制要求に対する製品の対応状況を調査し、社内規格により確実に遵守される体制を構築しました。

### 活動の現場から

ランプカンパニー 第一事業部門  
光プロセス BU プロジェクト推進部

大和田 樹志



地球温暖化に対する世界的な取り組みの中、省エネルギー機器を開発することは機械文明社会に生きる人類にとって必須の課題となってきています。

そのような中で、省エネルギーなメモリ素子やMPUを製造するための熱処理プロセスで使われる当装置自身も大幅に省エネルギー化できたことは大きな成果だと考えています。

### 環境に配慮した製品

#### ●大幅な使用燃料削減に貢献する省エネ集魚灯の開発 (ウシオライティング)

「U-BEAM. eco」(サンマ漁用)は、従来の白熱灯に対して発光効率の高いメタルハライドランプを搭載した集魚灯です。反射鏡には独自の高効率反射ミラーを採用し、光の指向性を高めたことにより、竿あたりのランプ灯数を大幅に減らしながら白熱球以上の海中への光浸透力と明るさを確保できるため、約1/7~1/10\*の照明用燃料費削減、ひいてはCO<sub>2</sub> 排出量の低減に貢献します。(「第5回エコプロダクツ大賞 エコプロダクツ部門 農林水産大臣賞」受賞・「平成20年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」受賞)



#### ●白熱電球が発する温かい光色、明るさを再現する、電球型 LED ランプの開発 (ウシオライティング)

電球型 LED ランプ「LED フィラメント電球 Let(レット)」は、LED を従来型白熱電球の発光部分と同様なフィラメント状に搭載したものです。光源部分に独自の蛍光体の調合技術、LED マウント方式を採用し、光の色やランプ形状を従来型の白熱電球や装飾電球に近づけたうえ、さらに透明かつクラシックなガラスバルブを使用、白熱電球用のソケットでも使用可能にしました。従来の白熱電球が発する温かい光色を LED で再現する「Let」は、照明を必要とする空間の雰囲気に合わせて演出を、低消費電力で可能にします。



#### ●省エネ低騒音型高輝度プロジェクタ HD10K-M (CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, INC.)

従来、このクラスの明るさのプロジェクタは、ランプ消費電力の関係から、供給電圧が、200V でなければ、使用できませんでした。クリスティ・デジタル・システムズでは、光の利

用効率を大幅に向上し、ランプ消費電力をほぼ半減し、100V でも使用できるようにしました。さらに同出力既存機に比較し、コンパクトで低騒音な製品が完成しました。



#### ●プリント基板配線用ステッパ「UX-5」

単位面積あたりの生産量が32%UP



#### ●超高圧 UV ランプ

170%の長寿命化  
重量あたり照度15%向上



#### ●データプロジェクタ用高輝度放電ランプ

光出力が2.5%UP  
省電力・長寿命化  
15.3%の軽量化



#### ●スポット UV 照射装置「SP9」

プリント基板の鉛フリー化  
電力切り替えスイッチの追加による省エネ化



#### ●スポット UV 照射装置「SP-500W」

光源部・電源・シャッターコントローラの一体化による部品点数の削減  
基板の鉛フリー化



#### ●多目的光源照射装置「オプティカル モデュレックスII」

RoHS 対応済み電源基板使用  
体積比 40%削減  
重量比 40%削減  
照射強度のアップ



#### ●エキシマランプ

効率アップ  
光の有効利用により3倍の照度を達成  
これらにより CO<sub>2</sub> の削減に貢献  
環境に優しい水銀レスランプ



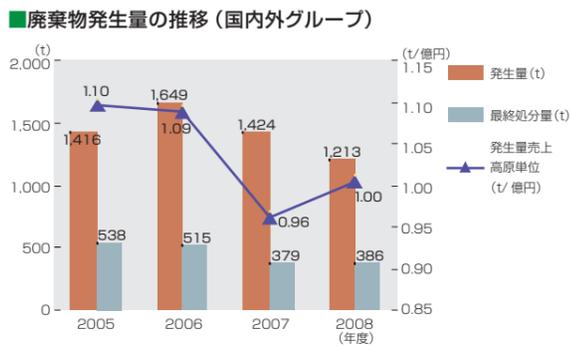
\*データは、当社従来製品との比較データです。

Q 資源節約の取り組みについて教えてください。

A マテリアルフローコスト会計 (MFCA) を活用した環境生産性の向上を目指した活動を進めています。

廃棄物の削減

国内グループの廃棄物処理コストは、2007年度比7%減となり、目標を達成しました。播磨事業所では、廃棄物の有価物化を推進し、処理コストを約20%削減しました。ゼロエミッションを継続できるサイト数は3サイトと前年実績の維持にとどまりました。



MFCA の実践

ランプカンパニーのUVランプ生産工程では、マテリアルフローコスト会計 (MFCA) の実践を継続しています。MFCAでは、従来の原価計算でロスと見なされない削りくずなど(負の製品)に原価を割り当て、材料ロスとして「見える化」することが可能になります。

高温の炎を用いてランプバルブを加工する工程では、石英ガラスの蒸発がロスとして顕在化したことにより、加熱条件を見直して燃焼ガスの使用量を約10%削減したことや、これまでは1本の素材ガラス管から3個しか取れなかったランプバルブを4個取れるようにし、投入材料を削減したことなどの成果が得られました。

設計・品質上の課題も多くあり、会議体を組織し、各部門が協力してロスコスト削減活動の展開、および投入原材料の最適化を目指す取り組みを開始しています。

製品リサイクルシステムの確立

2007年度に広域認定を取得した使用済みUVランプの回収サイクルは、半導体・液晶露光事業のお客さまへの提案を進めてきました。回収されたランプは、専門の処理業者

によって破碎された後、加熱して水銀を分離し、さらに希少金属、石英ガラスなどに分別されて、各材料に適したリサイクルを行なっています。ウシオでは今後も資源の有効活用、環境負荷の低減を実現する回収リサイクルシステムの普及を目指した活動を続けていきます。

グループの活動から

梱包材料の削減 (CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.)

合成樹脂製の梱包用緩衝材をリサイクル可能な紙製の緩衝材に変更し、合わせて減容と経費削減を行いました。

梱包材料の削減 (日本電子技術)

お取引先の協力のもと、通い箱の採用を進め、段ボールのリサイクル量を10%削減しました。

水資源の節約 (兵庫ウシオライティング)

冷却水を自動車用ラジエータを使用して冷却する、流水洗浄工程の水の使用量の効率化を図り、18%の節水を達成しました。

ランプ・リサイクル・プログラム (USHIO AMERICA, INC.)

米国内でランプ・リサイクルサービスを行っている Veolia 社と共同で RECYCLEPAK の提供を始めました。このパックには、リサイクル施設までの運送料、処理費用、リサイクル証明書、保険料がセットになっており、一般廃棄物として処理できない使用済みランプを安全に正しく処理するサービスを利用いただけます。

活動の現場から

ランプカンパニー 第三事業部門  
生産部門 SH 播磨製造部  
三輪 英樹

マテリアルフローコスト会計を進めていくことで、ものづくりが環境と大きく関わっていることがよく判ってきました。ものづくりの考え方・見方で資源の利用の仕方が大きく変わっていきます。ものづくりに携わる者として与えられた資源の最大限の有効活用を目指した、ものづくりを進めていきます。



Q ウシオでは環境リスクに対してどのような取り組みを行っていますか？

A 環境リスクへの対応は、重要な社会的責任ととらえリスク点検を進め、顕在化の防止に努めています。

グループで一体となった環境リスクマネジメント活動の展開

「環境リスクマネジメントガイドライン」のグループでの共有

グループ国内外拠点への「環境リスクマネジメントガイドライン」の普及により、各拠点にて有害薬品庫、公害防止施設などの点検とともに、環境ハザードマップの作成が進みました。また、環境リスク評価を実施し、リスク低減をPDCAで進めています。

グループ会社における環境リスクマネジメント教育の実施

ウシオ電機では、幹部社員を対象とした「環境リスクマネジメント講習」「環境リスク感性向上トレーニング」を実施しています。また、2008年度は、グループ会社のウシオ蘇州(中国)工場での、環境リスク感性向上トレーニングを行いました。包括的リスク管理のひとつとして「環境リスクマネジメント」を位置付け、日常のリスク点検と管理が大切であることを、社員に伝えています。

ハザードマップの作成と環境リスク巡回

ハザードマップの点検事例として、横浜事業所や播磨事業所などでは、「環境リスク巡回」によって、薬品庫の内容物と薬品リストの照合や、保管管理状態の点検を行っています。また、御殿場事業所でも、31施設に対して「環境リスク巡回」を実施した結果、薬品用配管の漏洩対策として二重カバーの設置などを行いました。



環境リスク巡回

土地土壌調査の実施

2008年10月には、事業統合集約のため解散した関連グループ会社の敷地について、土壌調査を実施しました。保有資産の保全を目的として、その土地で長く操業した社会的責任を果たすために、土壌汚染対策法に従った調査を第三者に委託し、「汚染のない」ことを確認しています。また、同工場で保管していた高濃度PCBコンデンサー(廃棄物)を、常時、管理できる横浜事業所へ移管しました(法規制による行政届出実施しました)。



高濃度 PCB コンデンサー運搬

活動の現場から

ウシオライティング株式会社  
環境施設課  
上垣 好夫

環境リスクの低減に向けて!

環境活動の最大のテーマを「法遵守・公害防止の固守・維持・継続」と掲げ、工場に潜在する環境リスクを徹底的に削減するため全力をあげて取り組んでおります。まずは環境ハザードマップを作成、経営基盤に影響を与えかねない公害問題は絶対に出不せ!との強い信念に立ち、巡視を続ける中、2008年度は接着剤洗浄汚水の処理、薬液保管方法の改善等を実施し、成果をあげることができました。また2009年度は浄化槽汚水の高濃度処理機の導入を予定しており今後ともさらなるリスク低減を目指したいと考えています。



グループの活動から

接着剤廃水処理設備の導入 (ウシオライティング)

これまで、工程内で使用される接着剤の容器を洗浄する際の廃液については、産廃処理を行っていましたが、水質を汚すリスクもあったことから廃水処理設備を導入しました。

これにより水質汚染のリスクを回避し公害防止に役立つと同時に、排水処理費用も大幅に削減できるようになるなど大きな成果をあげています。



新規導入の廃水処理設備

化学品緊急時訓練 (USHIO HONG KONG LTD.)

2009年3月に元朗センターにて化学薬品が飛散したとの設定にて緊急対応訓練が行われました。防護服、防護マスクを着用した完全防備にての訓練になりました。初めての訓練でもあり少し戸惑う場面もありましたが、無事に訓練を実施できました。今後は、緊急事態発生時でも落ち着いて行えるように訓練を継続実施していきます。



化学薬品緊急訓練

Q ウシオの部材に含有する化学物質の管理はどのようにしていますか？

A 部材の化学物質情報と化学物質調査進捗管理の2つのデータベースを構築し、グリーン調達基準をベースにした含有化学物質の管理を行っています。

化学物質部材データベース構築

ウシオ電機では、2003年度よりお取引先さまにご協力をいただき、グリーン調達基準に基づいた部材の環境資料を提出いただいています。

ランプカンパニーでは、2008年度にはこれらのデータを社内で簡単に利用できるよう、検索性に優れた、部材環境データベースの構築を2009年度の運用を目指して取り進めました。

システムカンパニーでも化学物質の含有調査にデータベースを使用し、データ管理を行っています。今後、データベースをバージョンアップし、REACH対応を行う予定です。

化学物質調査進捗管理データベースの構築

お客さまからの環境調査依頼に対応するためには多くの部門との連携が不可欠です。

ランプカンパニーでは、限られた担当による対応ではなく、専門性を有する関連部門の連携した対応が必要という考えに基づき、2007年度には各部門の役割を明確にした業務フローを作成しました。2008年度は、化学物質調査の進捗管理を目的としたデータベースの構築を進めました。個々の調査の進捗状況を明確にし、確実かつスピーディーな対応ができるよう、2009年度からの運用を目指して試行を行っております。

REACH 規則対応

2008年6月より、「人の健康および環境の保護」を目的とした工業用化学物質のリスク評価・管理を強化するEUのREACH規則の段階的施行が開始されました。ウシオ電機では、REACH規則の要求する登録、届出の条件を精査し、適切な対応を行いました。

公表された高懸念物質(SVHC)候補15物質についても、製品への含有量データを調査し、適切な対応を実施しました。SVHC候補物質の追加公表などに備え、サプライチェーン全体にわたる化学物質マネジメントシステムのレベルアップを進めます。

グリーン調達基準

ウシオ電機では、資材の購買活動に対する指針として「グリーン調達基準」を制定し、ホームページで公開しています。RoHS指令をはじめとした各国の法規制に対応するとともに、独自の環境影響化学物質を規定し、製品含有化学物質に関する内外の要求に応えています。

この基準を遵守するための体制を自己評価する評価表を付すとともに、環境マネジメントシステム(EMS)の構築をお取引先さまにお願いしています。

お取引先さまのEMS構築支援の活動については、P16「お取引先さまとともに」をご参照ください。

顧客グリーン調達基準の環境教育

製品の開発には技術的側面だけでなく、お客さまのグリーン調達基準の理解が大切です。要求内容は、お客さまごとに異なるため、理解の助けとなるよう要点をまとめ、社内にて関連部門を対象に定期的に環境教育を行っています。ランプカンパニーでは、これまでに18回講義を行い、のべ182名が出席しました。

海外生産拠点との連携

海外生産拠点における化学物質管理の強化のため、定期的な環境交流会を開催しています。2008年度は特に中国における各生産拠点において仕組み作りの強化を行いました。

グループの活動から

CMS(含有化学物質管理体制)の強化(ウシオライティング)

ウシオライティング株式会社では、含有化学物質のさらなる管理強化、効率的運用を目標にシステムの構築を行っています。



CMS構築会議

Q 環境パフォーマンス集計結果をどのように分析しましたか？

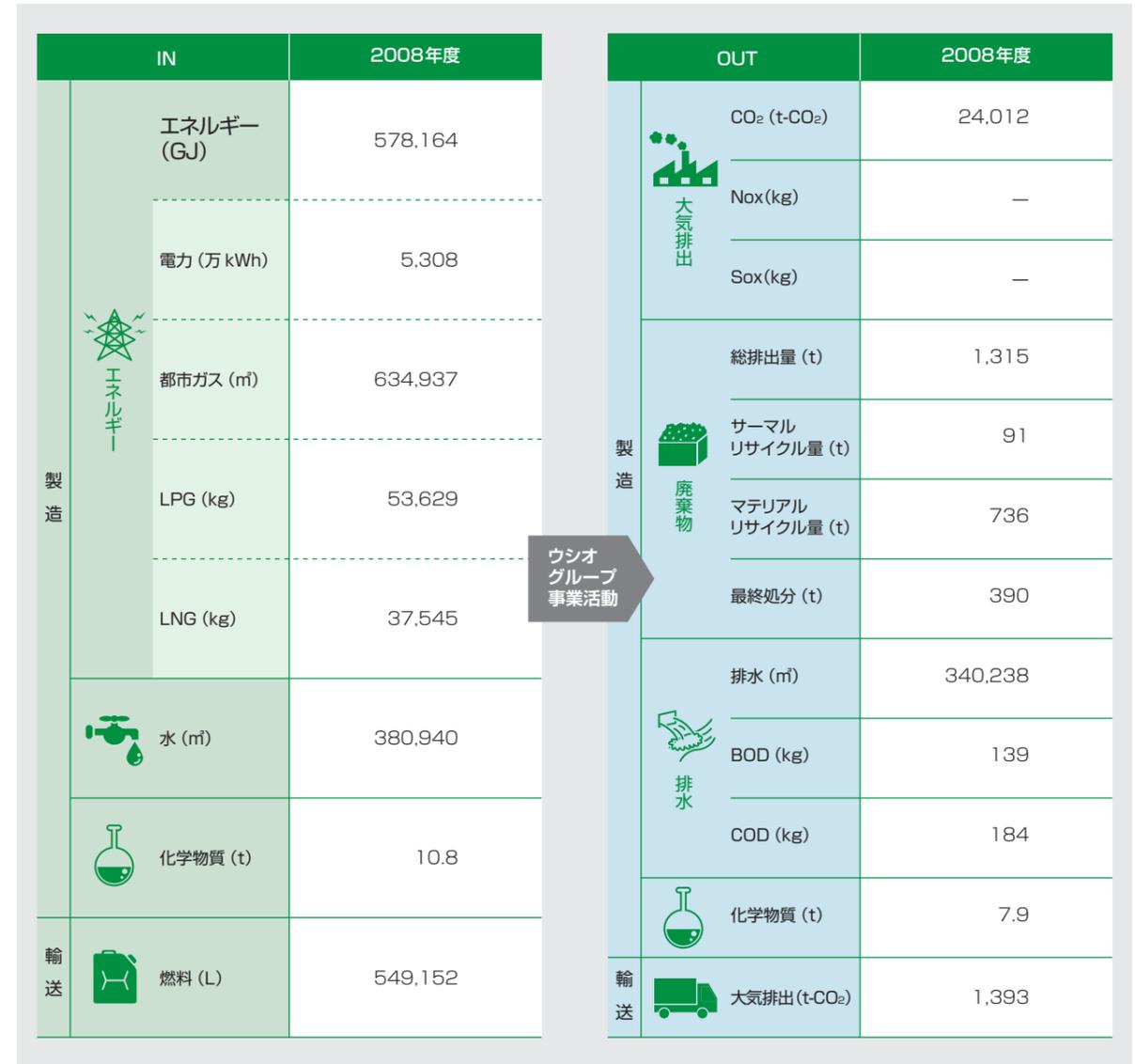
A 環境負荷低減活動は実績をあげていますが、経済環境に大きな影響をうけて資源投入量が減少しました。

エコバランス

ウシオグループ全体の環境負荷を数値として把握し、環境負荷低減だけでなく、環境経営の効果確認にも活用しています。

各サイトの負荷情報は、ECO-SYS(環境経営情報システム)により随時集計・把握し、リアルタイムに各サイトと連携して負荷低減活動につなげています。

今後は事業活動のみならず、カーボンマネジメントの視点での環境負荷把握に努めていきます。



- 対象期間：2008年4月1日～2009年3月31日
- 対象範囲：連結環境経営対象範囲 (P33～35に示す事業所およびグループ会社)
- 化学物質 (PRTR)：対象化学物質の排出量、移動量の合算値
- ※電力のCO<sub>2</sub>換算係数は0.41(電気事業連合会による排出係数)を使用しています。
- ※CO<sub>2</sub>以外の地球温暖化ガスは排出していません。
- ※燃料については製品の移動(トラック輸送)、および営業車など人の移動(社有車利用)があります。

Q 投資や費用が増加しましたが、効率的な投資でしたか？

A TV 会議システムや REACH 対応で、投資や費用は増加しましたが、大きな効果が得られました。

環境会計

ウシオグループでは、毎年環境会計の集計を行い、グループとして効果的、効率的な投資が行えたかどうかを確認し、翌年度の投資を見直すことで環境経営の強化・推進を図っています。

2008 年度は、費用合計が約 702 百万円 (26%増加)、

効果合計額は約 383 百万円 (172%増加) となりました。2007年度と比較して、地球環境保全コストが増加し、昨年減少した研究開発コストが大幅に増加したためです。これは、TV 会議システムのグループ導入や REACH 対応のコストの増加が要因ですが、これによる推定的効果も計上しております。効果としては、TV 会議システムを業務効率向上や CO<sub>2</sub>削減のために世界各地のグループへ導入し、月間 300 回前後利用されるまでになり、CO<sub>2</sub>を 651t 削減できました。

ウシオグループの環境会計

分類	主な内容	費用	環境設備投資	効果額	
				実質的效果	推定的効果
公害防止コスト・効果	廃液タンクの電動バルブ設置 洗浄排水処理装置	45.3	27.6	1.0	54.6
地球環境保全コスト・効果	電力監視システムの増強 断熱設備設置 省エネ効果	50.3	93.6	32.1	155.4
資源循環コスト・効果	廃棄物処理費用 資源廃棄物売却益	43.9	0.3	8.2	0.6
上下流コスト・効果	梱包材の回収・返却費 RoHS 検査費用	1.2	0.0	0.1	0.0
管理活動コスト・効果	環境マネジメントシステム構築・維持 環境教育 環境関連ソフトウェア	202.9	72.7	39.8	23.5
研究開発コスト・効果	環境配慮型製品開発費 REACH 対応	340.5	0.0	10.7	50.5
社会活動コスト・効果	地域清掃活動 環境イベント活動支援 募金	17.6	0.0	2.0	4.6
環境損傷対応コスト・効果	—	0.0	0.0	0.0	0.0
2008 年度合計		701.7	194.1	93.9	289.2
2007 年度合計		557.0	117.7	151.9	71.2

光を通じた社会における CO<sub>2</sub> 削減効果：163,604t

※CO<sub>2</sub>削減効果：「削減電力量」×「2008 年度出荷数量」×CO<sub>2</sub>換算係数にて算出しました。  
※OA 用急速定着ローラ加熱ヒーターや一般照明・商業施設用光源用ハロゲンランプなど、グループの代表的な省エネ型製品の使用時における CO<sub>2</sub>削減量で評価。

- 対象期間：2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日
- 対象範囲：連結環境経営対象範囲 (P33～35 に示す事業所およびグループ会社)
- 環境保全コストの算定基準：
  - ①費用額には人件費、投資の減価償却費を含みます。
  - ②設備投資額の減価償却費は 5 年の定額法を用いています。
  - ③環境保全コストとそれ以外のコストが複合したものは、環境保全に関わる部分だけを計上しました。
- 効果：実質的效果 (直接金額で算出) と推定的効果 (可能性を推定して算出) としています。

ウシオグループ各社は、「グループ環境ガバナンスの強化 8 項目」(G8) に従って、一体性を保ちつつ独自に EMS を構築し、環境活動を進めています。以下にグループ会社および

サイトの主要な EMS 活動状況の概要と環境パフォーマンスを報告します。なお、2008 年度は各サイトにおいて、環境関連の法令違反・訴訟・罰金・科料・事故はありませんでした。

生産サイト

国内 海外

**ウシオ電機株式会社 播磨事業所**



- EMS などの構築状況  
ISO14001/1997.10  
ISO9001/1993.05
- 主な環境関連の取り組み  
・電力モニターによるインフラ別電力使用量の監視  
・MFCA 活動の実施  
・エコアクション21 取得支援活動の実施  
・地域社会との環境コミュニケーション活動の継続
- 主要生産品目  
超高圧 UV ランプ、NSH ランプ、エキシマランプ など

〒671-0224  
兵庫県姫路市別所町  
佐土 1194

**ウシオ電機株式会社 御殿場事業所**



- EMS などの構築状況  
ISO14001/2004.10 (ランプカンパニー拡大認証時)、2004.02 (システムカンパニー)  
ISO9001/1995.10 (ランプカンパニー拡大認証時)、1997.07 (システムカンパニー)
- 主な環境関連の取り組み  
・電力モニターによる省エネ活動の推進  
・水資源 25% の削減  
・エコアクション21 取得支援活動の実施
- 主要生産品目  
超高圧 UV ランプ、液晶パネル関連装置、露光装置 など

〒412-0038  
静岡県御殿場市駒門 1-90

**ウシオ電機株式会社 横浜事業所**



- EMS などの構築状況  
ISO14001/2004.02  
ISO9001/1997.07
- 主な環境関連の取り組み  
・廃棄物有効利用率 99% を維持  
・環境巡回の実施
- 主要業務  
各種装置開発、カスタマーサービスなど

〒225-0004  
神奈川県横浜市青葉区  
元石川町 6409

**ウシオライティング株式会社**



- EMS などの構築状況  
ISO14001/2003.01 (2006.03 に支店など 5 拠点を含め拡大認証)  
ISO9001/2001.12  
OHSAS18001/2004.09
- 主な環境関連の取り組み  
・環境配慮型製品の開発促進  
・廃棄物 19.8% の削減  
・環境ハザードマップの作成・運用の実施  
・接着剤洗浄汚水の処理施設の導入・薬液 保管方法の改善
- 主要生産品目  
照明用ハロゲンランプ、メタルハライドランプ、特殊ヒーター、ファイバー光源装置 など

〒679-2215  
兵庫県神崎郡福崎町  
西治 860-22

**筑波ウシオ電機株式会社**



- EMS などの構築状況  
ISO14001/2005.04  
ISO9001/2004.03
- 主な環境関連の取り組み  
・デマンド警報の設置による省電力活動の推進  
・有害化学物質の排除・代替部品の検討  
・環境リスク巡回による施設管理の強化と場内事故「ゼロ」の維持
- 主要生産品目  
メタルハライドランプ、クセノンフラッシュランプ、水冷バルブランプ など

〒300-2635  
茨城県つくば市東光台 5-2-1

**兵庫ウシオライティング株式会社**



- EMS などの構築状況  
EMS 構築中
- 主な環境関連の取り組み  
・3つの無駄排除運動による省エネ推進  
・製造設備の見直しによる水資源の節約  
・紙ごみリサイクルによる一般ゴミの削減  
・グリーン調達基準の制定
- 主要生産品目  
店舗照明用ハロゲンランプ、舞台照明用ハロゲンランプ、舞台照明用コイルマウント など

〒671-2517  
兵庫県赤松市山崎町  
生谷 159-1

**日本電子技術株式会社**



- EMS などの構築状況  
ISO14001/2004.08  
ISO9001/1999.05
- 主な環境関連の取り組み  
・環境配慮型製品の設計・省エネルギー設備の導入促進  
・使用部品のうち 80% 以上を有害物質を含まない部品へ切り替え  
・ダンボール廃材を 35.7% 削減  
・「神奈川県民の森づくり」への参加
- 主要生産品目  
映像信号切替装置、PHOBOS 基板 (映像用)、TAB 検査装置用カメラ基板 など

〒229-0021  
神奈川県相模原市  
高根 2-2-27

**株式会社エビテックス**



- EMS などの構築状況  
ISO9001/2005.08
- 主な環境関連の取り組み  
・ウェハー処理後の排水処理で中和を実施  
・製造工程で鉛フリーのハンダを使用
- 主要生産品目  
各種 LED

〒601-8034  
京都府京都市南区東九条  
南河辺町 66-3

USHIO AMERICA, INC. (UAI)



5440 Cerritos Avenue,  
Cypress, CA 90630,  
U.S.A.

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2007.11 (UAI本社、アーバイン工場)  
ISO14001/2008.3 (UAIオレゴン工場)  
ISO9001/2005.10 (UAIオレゴン工場)
- 主な環境関連の取り組み  
・水使用量 (アーバイン) を 50.5% の削減  
・白紙使用量をペーパーレス化、両面印刷などの徹底により全体で 35% の削減  
・アルミ缶・プラスチック瓶のリサイクル率 90%  
・ランプリサイクルプログラムの推進
- 主要生産品目  
超高圧 UV ランプ、OA 機器用メタルハライドランプ、ハロゲンランプ など

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC. (CDSU)



10550 Camden Drive,  
Cypress, CA 90630,  
U.S.A.

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2007.11 (CDSU本社)
- 主な環境関連の取り組み  
・水資源節約のための設備見直し  
・原材料と廃棄物のリサイクルプログラムの見直し  
・梱包材を植物由来材料に変更  
・植樹祭などのイベントを通じた社会貢献活動の実施
- 主要生産品目  
劇場用映写システム、光源関連機材、デジタル映像機器、各種プロジェクタ等の開発・製造 など

USHIO (SUZHOU) CO., LTD. (USZ)



6, Yuyang Street,  
Suzhou New District,  
Suzhou, P.R.C.

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2005.03  
ISO9001/2005.03  
OHSAS18001/2006.05
- 主な環境関連の取り組み  
・空調の管理統一による省エネ活動の実施  
・合同環責会議の実施  
・仕入先の RoHS 監査の実施
- 主要生産品目  
OA 機器用ハロゲンランプ、希ガス蛍光灯ランプ、プロジェクタ用光源・装置 など

TAIWAN USHIO LIGHTING, INC. (TULI)



No.82, Taiho Rd.,  
Chupei, Hsinchu Hsien,  
Taiwan, R.O.C.

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2004.04  
ISO9001/2003.03 (ISO9002/1997.07USHIO TAIWAN, INC.として取得後、分社の後規格変更)
- 主な環境関連の取り組み  
・新規設備発注時の環境側面の配慮  
・消防訓練の実施  
・グループ内環境コミュニケーションの実施
- 主要生産品目  
舞台照明用ハロゲンランプ、一般照明用ハロゲンランプ、メタルハライドランプ など

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC. (CDSC)



809 Wellington Street,  
North Kitchener, Ontario,  
N2G 4Y7, Canada

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2007.06  
ISO9001/1987.06
- 主な環境関連の取り組み  
・1 従業員あたりのエネルギー削減取り組み  
・製品排熱の再利用  
・月毎の廃棄物量、リサイクル量の管理と改善活動  
・新ネットワークオペレーションセンターへの再生可能建材の利用  
・環境マネージメントグループによる「Lunch and Learn」の定期開催  
・地元高校のバッテリーカー走行距離競技チームへの支援
- 主要生産品目  
劇場用映写システム、光源関連機材、デジタル映像機器、各種プロジェクタ等の開発・製造 など

BLV Licht- und Vakuumtechnik GmbH (BLV)



Münchner Straße  
10,85643  
Steinhöring, Germany

- EMSなどの構築状況  
EMS 構築中  
ISO9001/1991.12
- 主な環境関連の取り組み  
・グループ内環境コミュニケーションの継続
- 主要生産品目  
メタルハライドランプ、照明用ハロゲンランプ、ヒータ用ハロゲンランプ、高圧 UV ランプ など

USHIO PHILIPPINES, INC. (UPI)



First Cavite Industrial  
Estate, Barangay  
Langkaan, Dasmariñas,  
Cavite, Philippines

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2004.06  
ISO9002/2000.12
- 主な環境関連の取り組み  
・グループ内環境コミュニケーションの実施
- 主要生産品目  
照明用・OA 機器用ハロゲンランプ など

非生産サイト

ウシオ電機株式会社 本社



〒100-8150  
東京都千代田区大手町2-6-1

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2004.12
- 主な環境関連の取り組み  
・環境推進委員会を中心とした、省エネ、廃棄物削減の取り組み  
・地域社会との環境コミュニケーションの実施
- 主要業務  
ウシオ電機およびウシオグループ統括業務 など

ウシオ電機株式会社 大阪支店



〒532-0011  
大阪府大阪市淀川区  
西中島 5-13-9

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2004.10  
(ランプカンパニー拡大認証時)
- 主な環境関連の取り組み  
・廃棄物の削減活動
- 主要業務  
光源および光源ユニット・装置などの販売

USHIO EUROPE B.V.



Sky Park, Breguetlaan  
16-18, 1438BC  
Oude Meer,  
the Netherlands

- EMSなどの構築状況  
EMS 構築中
- 主な環境関連の取り組み  
・環境コミュニケーションの実施
- 主要業務  
超高圧 UV ランプ、クセノンショートアークランプ、ハロゲンランプ、光システム製品 などの販売

USHIO TAIWAN, INC.



#31,10/F, Sec.1  
Chung-Shiaw E.Road,  
Taipei, Taiwan, R.O.C.

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2006.02
- 主な環境関連の取り組み  
・内部監査推進メンバーの教育訓練の実施  
・消防訓練の実施などリスクマネジメントレベルの向上
- 主要業務  
超高圧 UV ランプ、ハロゲンランプ、各種露光装置、光学装置 などの販売

USHIO SINGAPORE PTE LTD.



#1,Jalan Kilang #05-01,  
Dynasty Industrial  
Bldg., Singapore 159402

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2007.12  
ISO9001/2007.12
- 主な環境関連の取り組み  
・環境コミュニケーションの実施
- 主要業務  
超高圧 UV ランプ、クセノンショートアークランプ、ハロゲンランプ、光システム製品 などの販売

ウシオ電機株式会社 東京営業本部



〒100-8150  
東京都千代田区大手町2-6-1

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2004.10  
(ランプカンパニー拡大認証時)  
ISO14001/2004.02 (システムカンパニー)
- 主な環境関連の取り組み  
・環境推進委員会の主導で省エネ、廃棄物の削減活動の実施  
・各部門へのREACH講習会の実施
- 主要業務  
光源および光源ユニット・装置などの販売

株式会社 ジーベックス



〒104-0032  
東京都中央区八丁堀 4-9-4  
西野金陵ビル

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2008.01
- 主な環境関連の取り組み  
・省エネ活動の推進  
・埋め立てゴミ排出量を前年度比 80% に
- 主要業務  
映画館用映写機材、映写機用クセノンランプ、映画用音響機材 などの販売

USHIO HONG KONG LTD.



Tower6, 31/F, Suites  
3113-14, The Gateway,  
9 Canton Road, Tsim Sha  
Tsui, Kowloon, Hong Kong

- EMSなどの構築状況  
ISO14001の認証を取得 (2008.4.11)
- 主な環境関連の取り組み  
・化学薬品飛散緊急訓練と消防避難訓練の実施によるリスクマネジメントの推進  
・環境コミュニケーションの実施
- 主要業務  
OA 機器用ハロゲンランプ、希ガス蛍光灯ランプ、プロジェクタ用光源 などの販売

USHIO KOREA, INC.



Dukheung Bldg., 14/F,  
1328-10, Seocho-dong,  
Seocho-ku, Seoul, Korea

- EMSなどの構築状況  
ISO14001/2006.12
- 主な環境関連の取り組み  
・環境ワークショップ開催
- 主要業務  
超高圧 UV ランプ、クセノンショートアークランプ、各種露光装置、光学装置 などの販売

USHIO SHANGHAI, INC.



HSBC Tower, 10/F,  
1000 Lujiazui Ring Road,  
Pudong New Area,  
Shanghai, 200120, P.R.C.

- EMSなどの構築状況  
ISO14001の認証を取得 (2009.3.6)
- 主な環境関連の取り組み  
・合同環責会議の実施  
・ISO14001の認証取得
- 主要業務  
半導体・液晶用光源・装置、映画用光源、照明用光源などの販売

サイト別環境パフォーマンスデータ一覧

国内 海外

生産サイト	INPUT			OUTPUT														
	総エネルギー 投入量 (MJ)	水資源 (m <sup>3</sup> )	温室効果 ガス (t-CO <sub>2</sub> e)	NOx (kg)	SOx (kg)	総排水量 (m <sup>3</sup> )	BOD (kg)	COD (kg)	PRTR				廃棄物					
									CO <sub>2</sub> 当量 大気	CO <sub>2</sub> 当量 廃棄物	メタン 下水	メタン 廃棄物	総排出量 (kg)	最終処分量 (kg)	資源有効 利用率(%)			
ウシオ電機株式会社																		
播磨事業所	226,683	43,903	9,611	-	-	37,772	-	-	5,645	0	0	405	231,633	34,085	85.3			
御殿場事業所	67,948	41,342	2,885	-	-	41,342	97	123	1,125	100	-	-	109,083	7,079	93.5			
横浜事業所	15,538	9,004	644	-	-	8,811	-	-	-	-	-	-	14,409	0	100.0			
ウシオライティング株式会社	53,438	8,650	2,057	-	-	6,346	42	61	-	-	-	114	146,961	30,815	79.0			
筑波ウシオ電機株式会社	10,793	1,261	424	-	-	1,262	-	-	-	-	-	-	8,687	590	93.2			
日本電子技術株式会社	871	275	38	-	-	275	-	-	-	-	-	-	4,250	0	100.0			
兵庫ウシオライティング株式会社	5,237	859	217	-	-	859	-	-	-	-	-	-	7,054	1,080	84.7			
株式会社エビテックス	2,955	1,266	122	-	-	1,266	-	-	-	-	-	-	42,843	-	-			
ウシオ AMERICA, INC.	26,047	19,768	1,089	-	-	19,768	-	-	-	-	-	-	138,456	87,677	36.7			
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.	12,248	11,956	511	-	-	11,956	-	-	-	-	-	-	84,726	31,579	62.7			
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.	63,802	4,359	2,753	-	-	4,359	-	-	-	-	-	-	266,678	65,230	75.5			
BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH	1,264	1,644	35	-	-	1,644	-	-	-	-	-	-	92,726	6,470	93.0			
ウシオ PHILIPPINES, INC.	27,245	210,416	968	-	-	178,706	-	-	-	-	-	-	28,840	405	98.6			
ウシオ(SUZHOU)CO.,LTD.	30,297	12,600	1,147	-	-	12,600	-	-	-	-	-	-	5,080	-	-			
TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.	13,630	3,556	531	-	-	3,556	-	-	-	-	-	-	9,921	5,838	41.2			
非生産サイト																		
ウシオ電機株式会社																		
本社	1,763	-	81	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,456	358	97.5		
東京営業本部	806	-	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8,044	269	96.7		
大阪支店	206	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	816	0	100.0		
株式会社ジーベックス	970	-	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8,078	1,834	77.3		
ウシオ EUROPE B.V.	2,132	2,772	58	-	-	2,772	-	-	-	-	-	-	-	2,076	-	-		
ウシオ HONG KONG LTD.	4,850	3,506	201	-	-	3,234	-	-	-	-	-	-	-	84,536	72,936	13.7		
ウシオ SHANGHAI, INC.	203	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2,527	-	-		
ウシオ SINGAPORE PTE LTD.	779	358	35	-	-	266	-	-	-	-	-	-	-	420	-	-		
ウシオ TAIWAN, INC.	3,649	2,631	197	-	-	2,631	-	-	-	-	-	-	-	1,901	524	72.4		
ウシオ KOREA, INC.	4,811	815	311	-	-	815	-	-	-	-	-	-	-	773	265	65.7		

USHIO サステナビリティレポート 2009 を読んで

株式会社FEM 代表取締役  
山口 真奈美

企業の社会的責任を果たす。その責任が何かとは企業の理念や方針、目指している方向性によって特徴が表れます。この報告書から見える責任は、まず「人」ありきであり、お客さまはもとより社員や取引先などのステークホルダーの方々がいかに充実した豊かな人生を送れるかを意識していることが伺えます。

特集の座談会にもあるように、育児や語学勉強の事例から社内でも家庭でもバランスのとれた豊かな人生を送るためのヒントが交わされており、両立支援制度や障害者雇用、自己啓発援助についても具体的な報告がなされています。人ありきのバランスのとれた柔軟な組織であるということが、社会からの評価の高さにも表れているといえましよう。

さらに、持続的な発展の側面として、EMSの経年変化や今後の対策への指針は今年も打ち出されており評価できますが、ECO-SYS（環境経営情報システム）による結果の追跡などを有効に活かしながら、目標が達成されたということであれば成功理由を明示し、まだ達成出来ていないと判断される項目については、PDCAにあるC（チェック）と次のA（アクション）への繋がりを明確にすることで各活動に深みが増すでしょう。

温暖化対策については、ウシオ単体でみるとCO<sub>2</sub>削減状況が昨年よりさらに目標未達と残念な結果となっています。理由として景気の変化による生産減少に対する電力削減が追いつかないなどがありました。実績を考慮した目標の再設定もしくは削減に向けた新たな取り組みの検討と強化が求められるでしょう。

実際には省エネなどの努力はみられますし、廃棄物の削減など評価できる個所も多く、グリーン調達や環境影響化学物

質への対応についても積極的な報告がなされています。

新たに求められる命題として、原料の調達をはじめ地球環境との接点になると思われる部分について精査し、人と自然、そこに生息する生物多様性の保全への貢献などがあります。これらを踏まえ、「2020年ウシオ環境ビジョン」で第三期環境行動計画のスタートという新たなステージに立つ今、いかに設定された目標を具現化していくかが課題であり、ウシオ電機ならではの取り組みが期待されます。

光を通じた環境貢献をみざす中で、国内外でのグローバルかつ地域に密着した社会貢献活動、EA21取得推進や各方面での監査の実施、社員や取引先に対する教育など、同じ仲間として環境やCSR対策の底上げと協力体制、時には一緒に考えながら「環境力」を増していく道筋が全体を通じ網羅されていました。

私たち人間が何気なく生活し、人生を充実させることができる基盤には、豊かな地球環境と多様な生態系の存在が不可欠です。ふと手にした製品が環境にも配慮され、作り手となる人々の生活や経済面を保障し、新たな可能性を広げる未来を共に歩むことができる。そんな企業であり続けるだろうと感じる報告が今年もなされています。



山口真奈美氏 プロフィール  
環境・CSRに関する研究・評価・教育及び関連事業の他、環境やオーガニック等の認証審査を手掛ける。株式会社FEM代表取締役。株式会社Control Union Japan代表取締役。他NPO理事等を兼任。経済学修士(環境経済学)・学術修士(環境科学)

第三者意見を受けて

私どもの「サステナビリティレポート 2009」に対して、昨年に引き続き株式会社FEM代表取締役の山口真奈美様より率直で貴重なご意見をいただきましたことに、感謝申し上げます。

今年度のサステナビリティレポートでの、「人」と「環境」をテーマとしたマテリアリティをご評価いただいたことは、当社の企業としての社会的責任への取り組みの励みとなるものです。当社は企業理念の第一に「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」を掲げております。社員やお客さまを含めて「人」ありきのバランスのとれた取り組み姿勢を目指しております。特集の座談会の内容を通じて、これらの点を感じていただけたのであれば、大変嬉しいことです。

一方、ご指摘を踏まえ、ECO-SYSにより、グループ全社にわたる環境負荷低減の施策の検証を定量的に行い、従来以上にPDCAサイクルの確実な実行を積み重ねてまいります。また、消費される資源のライフサイクルの考察に基づく循環社会貢献や

ウシオ電機株式会社 取締役 環境担当 大島 誠司

温暖化対策・生物多様性保全など、課題と進むべき方向性についても、ご指摘に答えられるよう取り組んでいく所存です。

さて、当社におきまして2009年度より、新しく第三期環境行動計画をスタートさせます。これまでの実績の評価に基づき、今後のあるべき姿を見つめて、「2020年ウシオ環境ビジョン」を設定いたしました。この行動計画は、目指す「理想像」から現状を振り返り、それを実現するために何をすべきかを考えた計画です。このバックカスティングにより、目標を具体化して明確な施策を策定し、行動計画を確実に実施して行く考えです。

経済・社会・環境の「三枚の葉」のバランスある発展をみざし、グループ丸となって努力を継続してまいります。「サステナビリティレポート 2009」を読んで頂きましたみなさまに、これまで同様、当社の取り組みにつき、ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ウシオグループの活動を象徴する「3色の葉」



2005年度版「サステナビリティレポート」から、表紙に採用している「3色の葉」。これは「光の三原色」と環境の象徴である「若葉」をモチーフに、サステナブル経営の3つの要素、「経済性」(レッド)、「社会性」(ブルー)、「環境」(グリーン)をデザインしたものです。3色それぞれの葉が、毎日の地道な活動によってすくすく成長し、大きな幹を創りだすことを目指しています。